

図6 漢人による台湾の開拓年代
(陳正祥 1993 : 31 より)

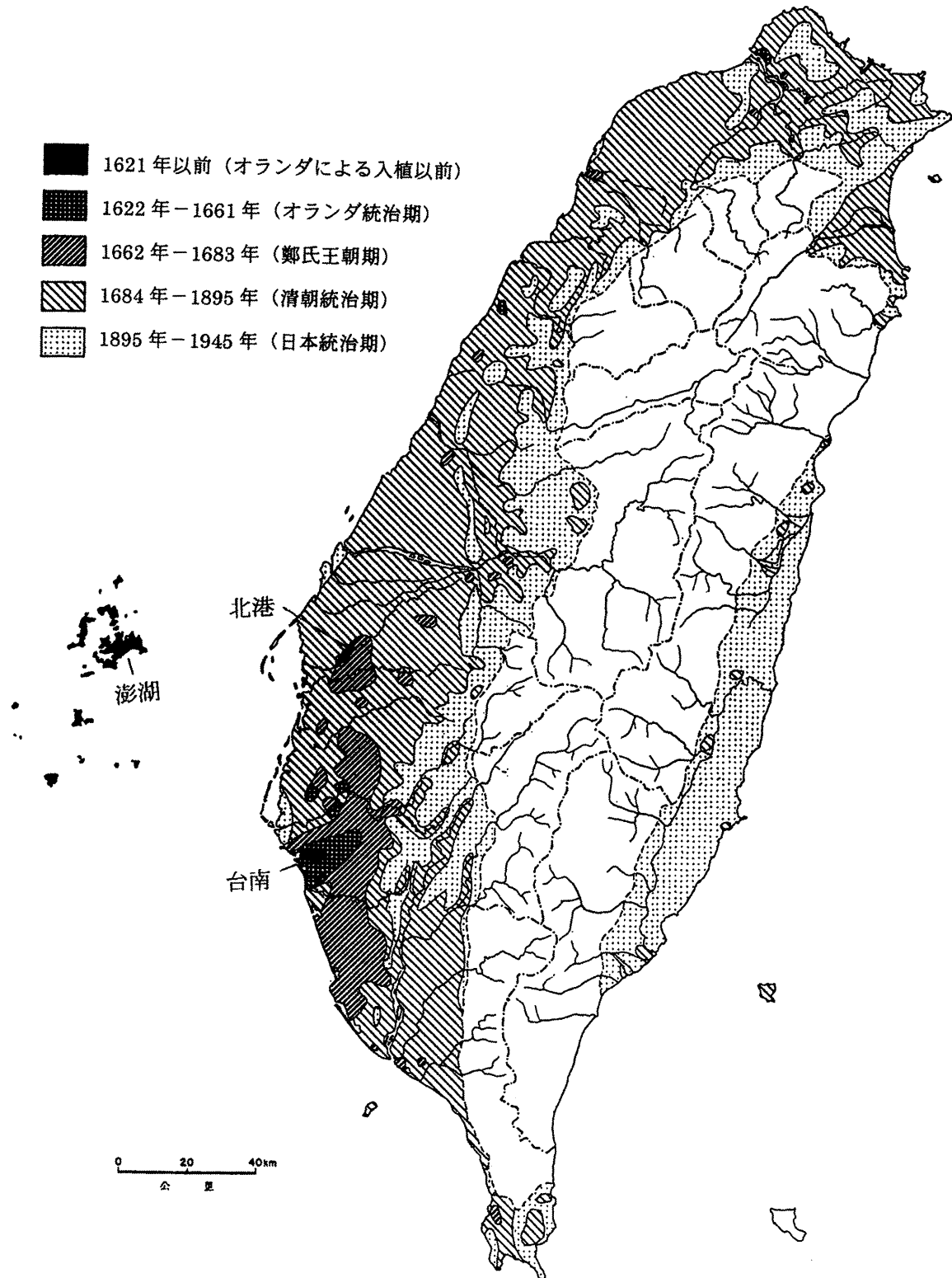


図7 台湾漢人の入植地と祖籍（1926年）
（『漢声』19号 1988：16より）

注：この地図の原資料は、施添福
1987『清代在台湾人的祖籍分布
和原郷生活方式』台北：台湾師
範大学地理学系である。

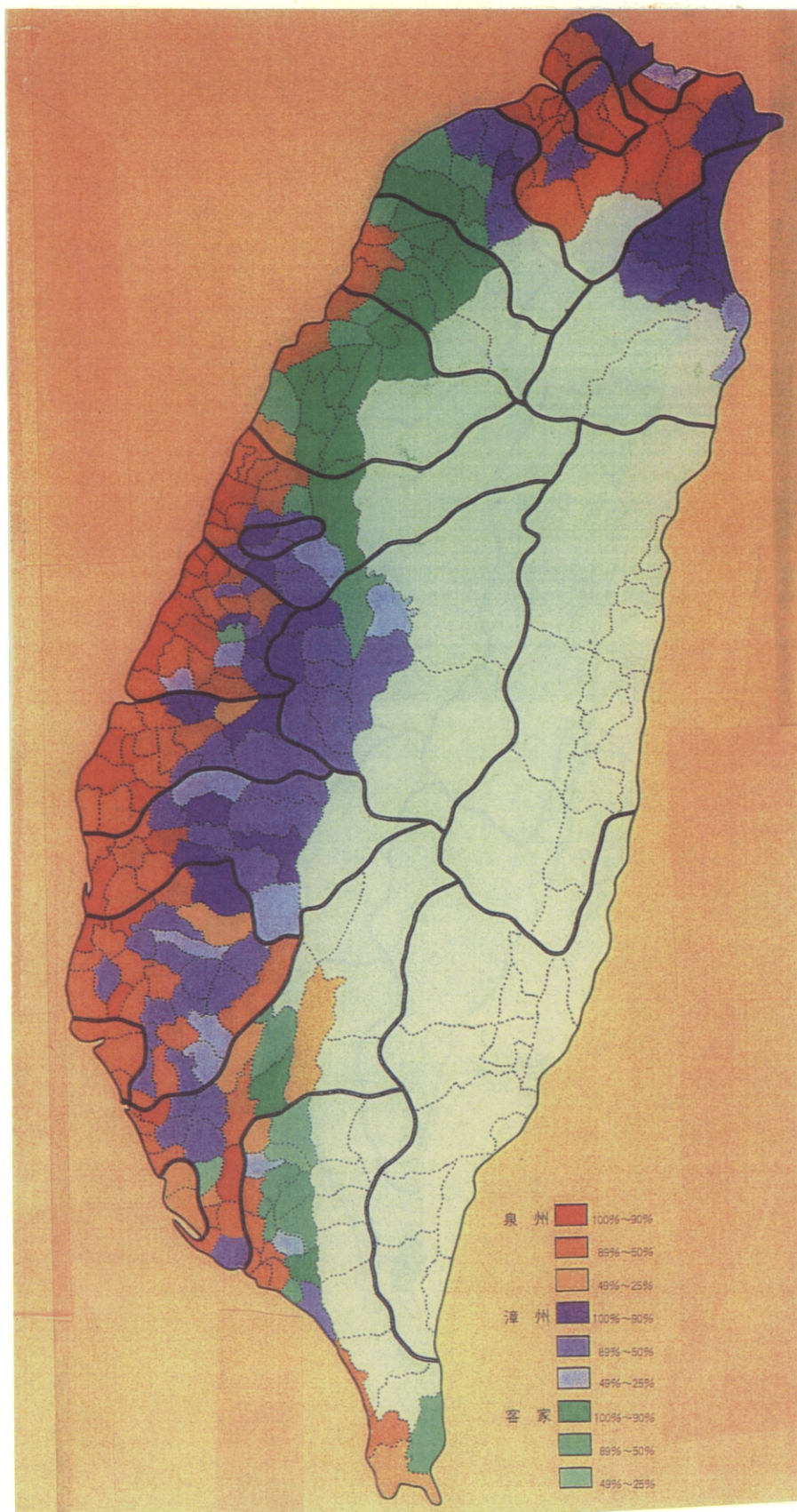


図8 台湾の王爺廟分布 (総数 689 宇)
(仇徳哉 1985:943-1007 より)

縣市名	廟数	縣市名	廟数
台北県・市*	28	桃園県	5
新竹県	10	苗栗県	20
南投県	4	台中県・市	64
彰化県	49	雲林県	64
嘉義県・市	94	台南県・市	152
高雄県・市	89	屏東県	63
澎湖県	35	台東県	8
花蓮県	1	宜蘭県	3

* 基隆市を含む

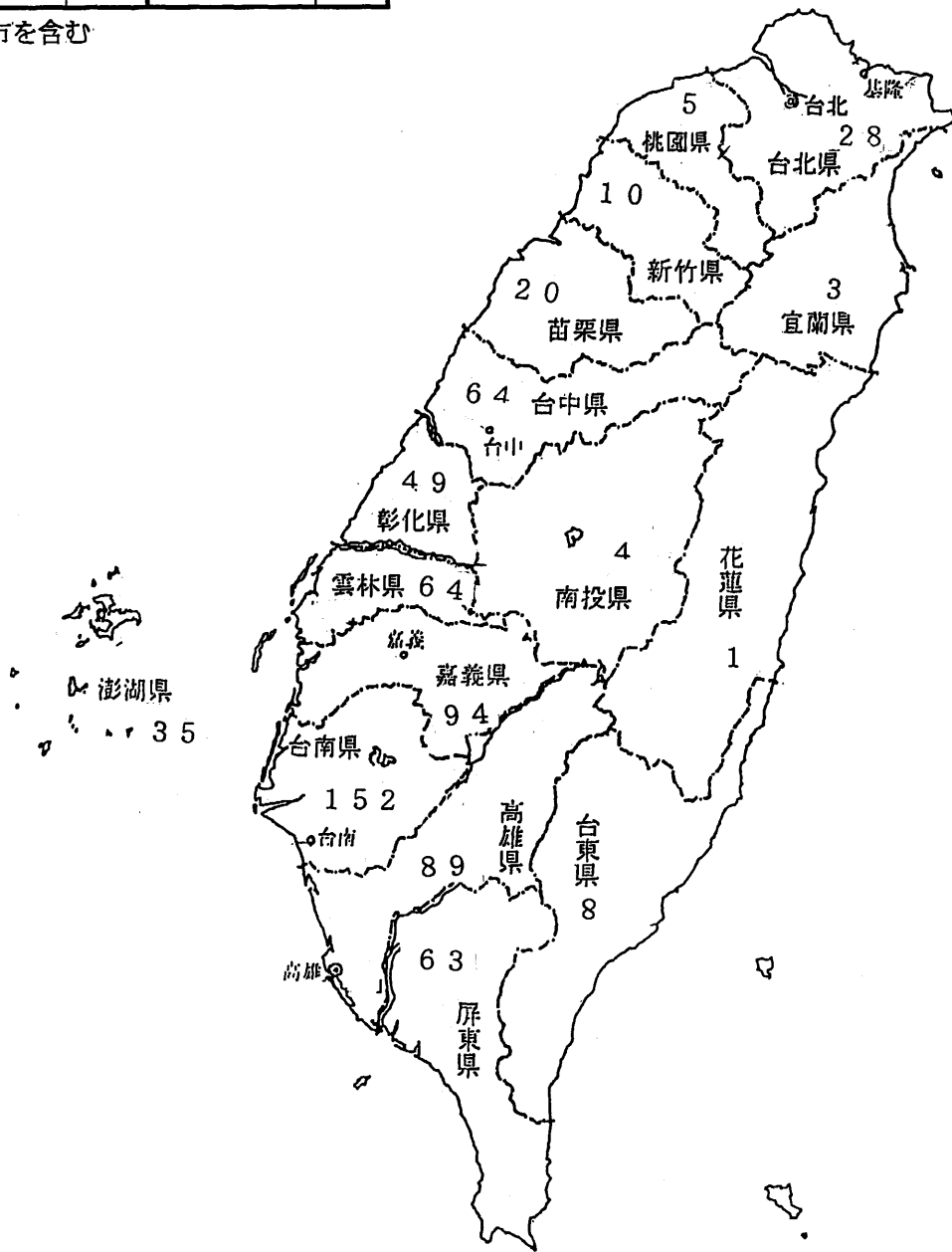
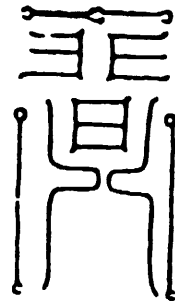


図9 『法海遺珠』にみえる「十二値年瘟王」の符

第一頁將張全



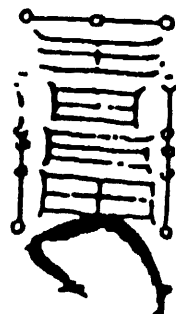
第四頁將耿通



第七頁將趙玉



第十頁將盧德



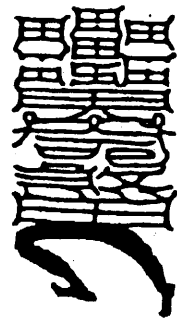
第二頁將余文



第五頁將薛江



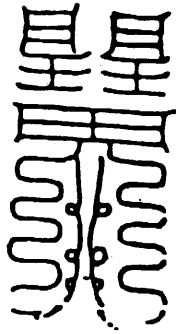
第八頁將何冲



第十一頁將羅大文



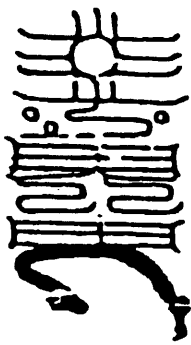
第三頁將侯彪



第六頁將吳大



第九頁將封丘



第十二頁將何仲



図 10 香山五岳神 (出典: Dore, 1993[1967]: Fig.238)

Fig. 238



*Hiang-shan Ou Yo-chen. Peinture des cinq Meccidés, esprits des épidémies de la pagode San-i-ko
Hsiang-shan Wu-yeh-shen. Peinture représentant les Five Literati, Gods of Diseases in the temple San-i-ko.*

図 11 『三教源流搜神大全』に見える〈五瘟〉(出典:王秋桂・李豊楙 1989:152)



図12 〈王爺〉と〈瘟神〉の差異 (康豹 1997:183)

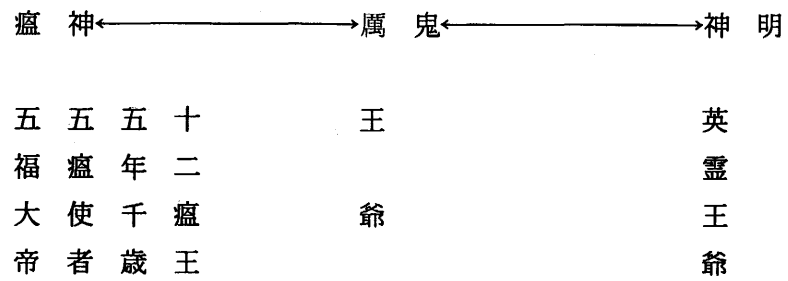


図 13 神々のパンテオン（行政組織）（出典：董芳苑 1996:180-181）

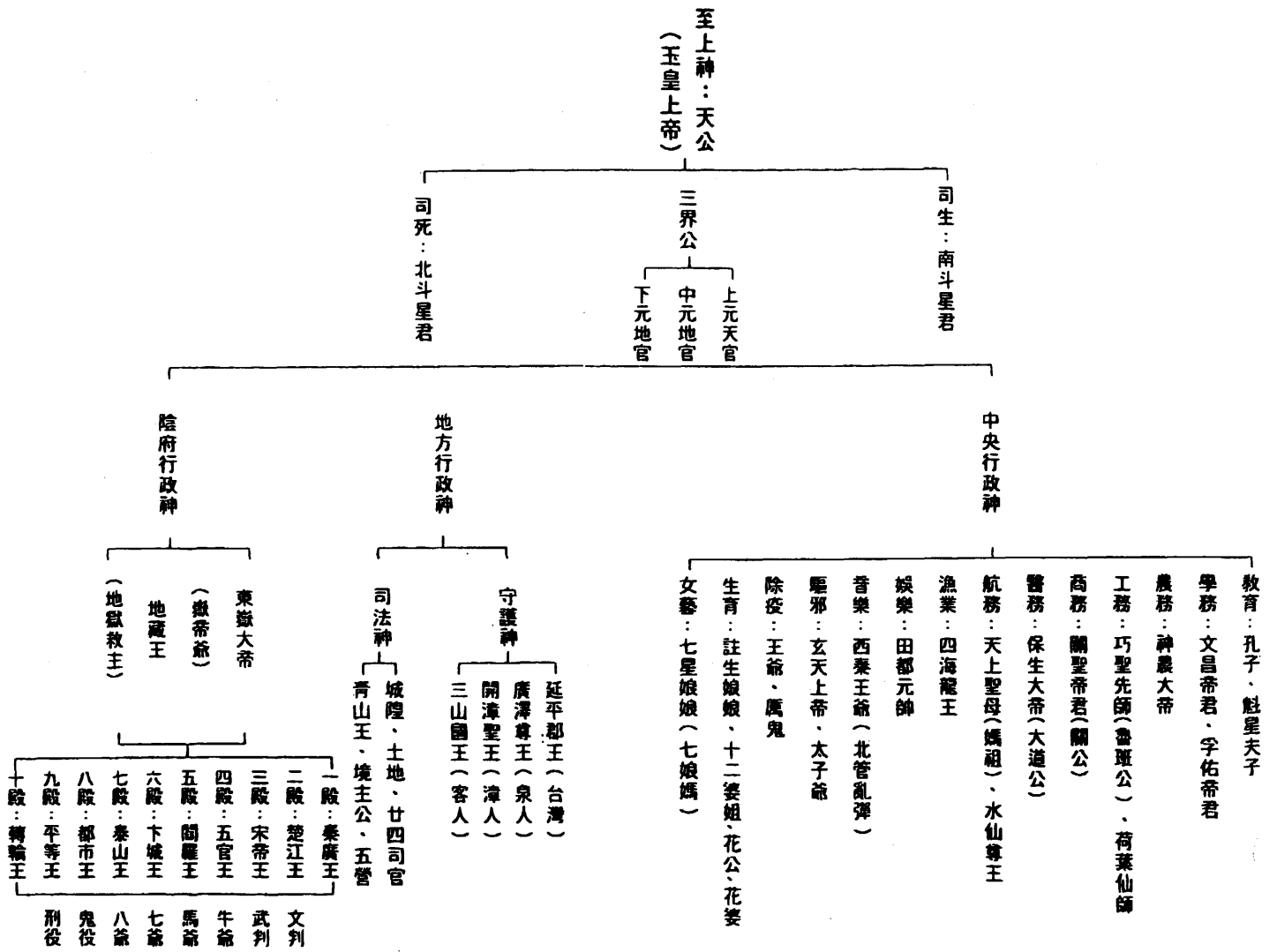


図14 神々のパンテオン（司法・警察組織）（出典：董芳苑 1996:182）

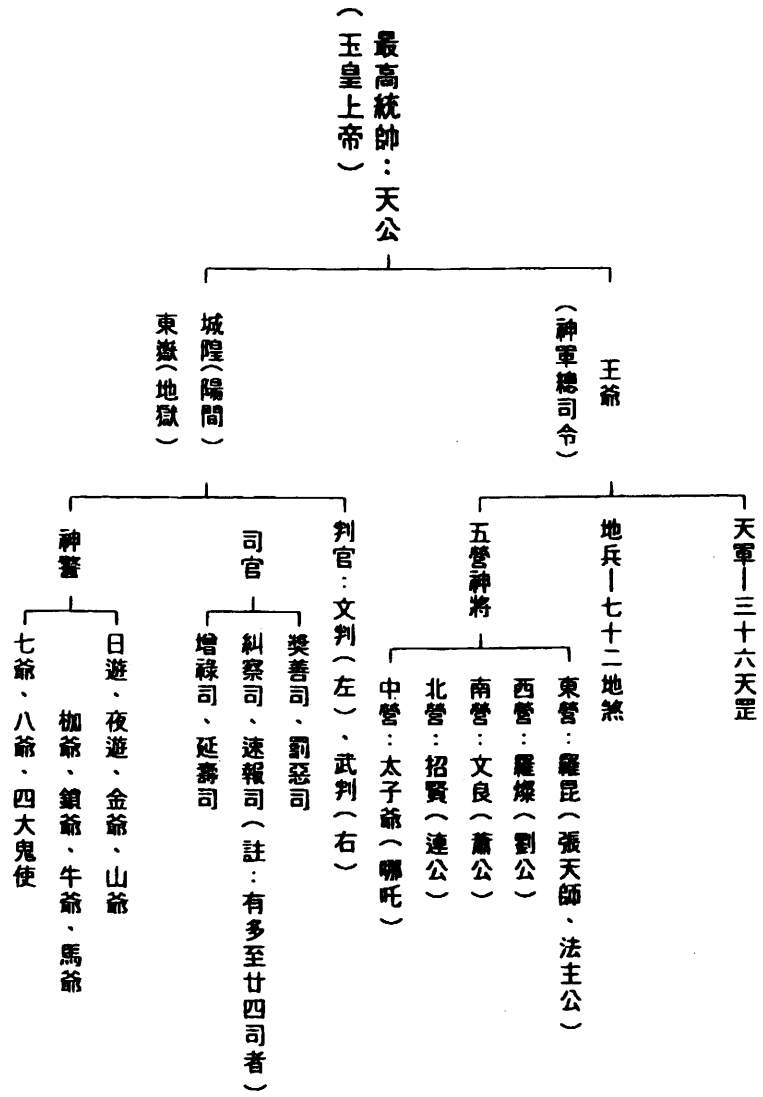


図 16 鎮安宮〈五年王爺〉の〈分靈〉の分布とその変化

縣市名	分靈数	
	89年	97年
台北市	20	31
台北県	60	89
基隆市	2	4
桃園県	11	14
新竹県	2	6
苗栗県	0	1
台中県	4	7
台中市	5	5
南投県	1	3
彰化県	14	16
雲林県	37	47
嘉義市	14	17
嘉義県	30	38
台南県	6	7
台南市	9	6
高雄市	26	34
高雄県	11	11
屏東県	21	31
台東県	6	6
花蓮県	1	2
宜蘭県	0	2
計	280	377

地図中の数字 ○→●は、前者の○が1989年の数、後者の●が1997年の数を示している。

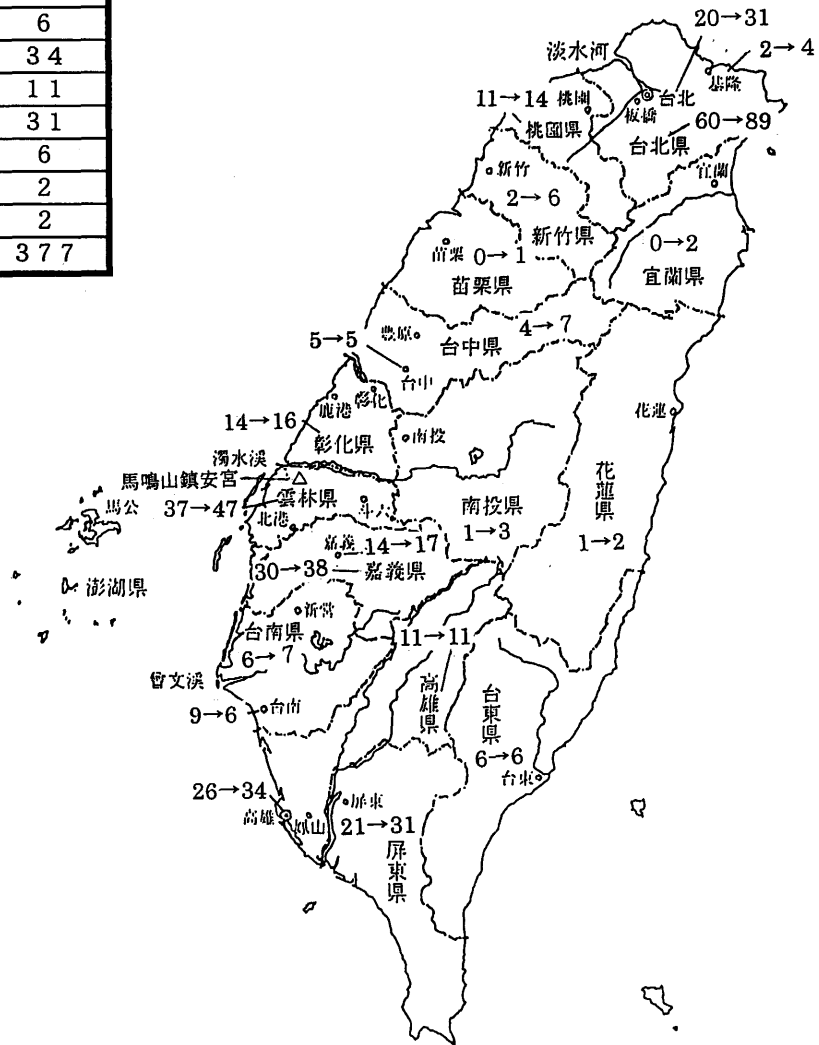


図 17 鎮安宮管理委員会の訪問先 (1990 年)

県市名	訪問先の単位 (廟・私壇・個人) の数	
	訪問先総数(A)	(A)のうち分霊の数
台北市	90	20
台北県	190	59
基隆市	7	2
桃園県	34	12
新竹県	6	2
苗栗県	0	0
台中県	19	4
台中市	16	5
南投県	5	1
彰化県	19	13
雲林県	70	38
嘉義市	24	13
嘉義県	77	32
台南県	11	4
台南市	11	9
高雄市	38	27
高雄県	17	7
屏東県	54	21
台東県	8	6
花蓮県	1	1
宜蘭県	4	0
計	701	275

地図中の数字○(●)は、前者が (A) ,後者が(A)のうち分霊の数である。

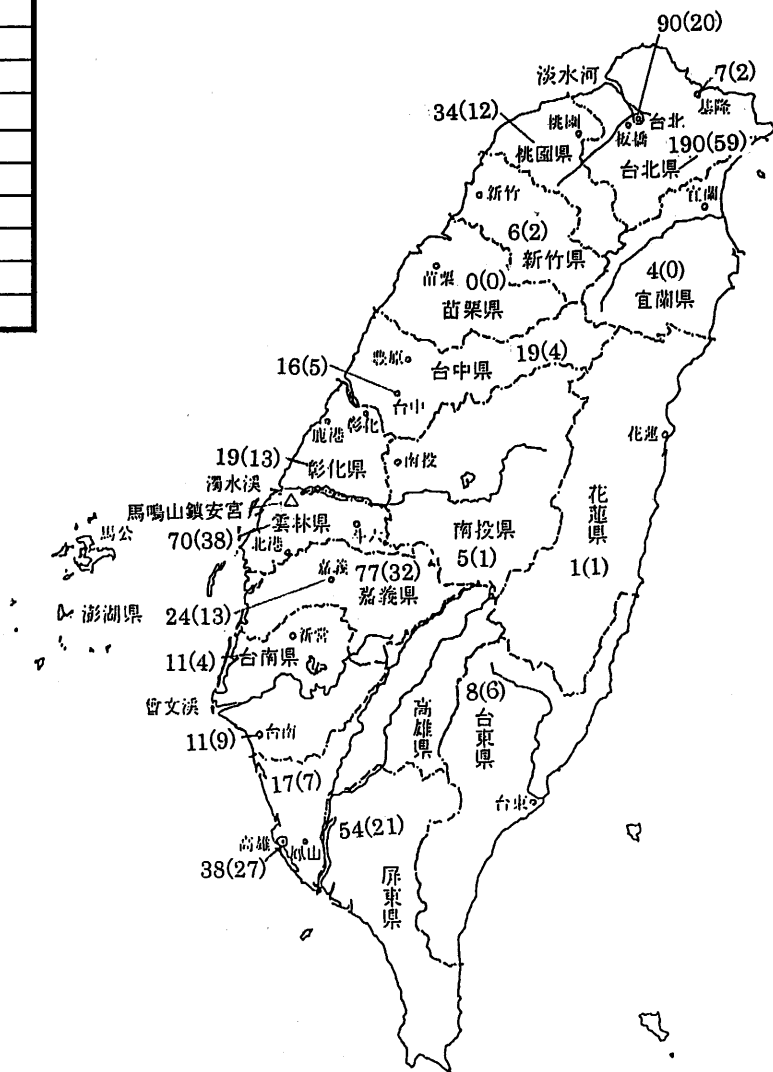


表1 〈五股〉構成村落（日本時代及び清代の行政区分との対照）

股名	集落名	現行の所属郷	現行村名	日本時代村名	清代村名
主普股	月眉	東勢郷	月眉村	海口庄大字月眉	布嶼堡月眉莊
	田洋	褒忠郷	田洋村	土庫街大字田洋	布嶼堡頂田洋莊・下田洋莊
主会股	馬埔	東勢郷	月眉村	海口庄大字月眉	布嶼堡月眉莊
	六塊寮	褒忠郷	馬鳴村	土庫街大字馬鳴山	布嶼西堡馬鳴山莊
	褒忠	褒忠郷	中民村・中勝村・埔姜村	土庫街大字埔姜崙	布嶼西堡褒忠論莊褒忠街
主壇股	新厝	褒忠郷	新湖村	土庫街大字湖頭厝	布嶼西堡芋頭厝莊
	芋頭	褒忠郷	新湖村	土庫街大字湖頭厝	布嶼西堡芋頭厝莊
	有才	褒忠郷	有才村	土庫街大字有才寮	布嶼西堡有才寮
主醮股	同安	東勢郷	同安村	海口庄大字安厝	布嶼堡同安厝莊
三官主股	馬鳴山	褒忠郷	馬鳴村	土庫街大字鳴馬山	布嶼西堡馬鳴山莊
	昌南	東勢郷	昌南村	土庫街大字同安厝昌南	布嶼堡昌南莊
	復興	東勢郷	復興村	海口庄大字月眉小字呂厝莊	布嶼堡呂厝莊

表2 S村K姓遷出者の年代別推移（組数）

凡例：家族で遷出している場合は、何人構成であっても1組とした。よって、実際の人数は、この表よりもはるかに多い。雲林県A及び嘉義県Aは、五年王爺の五股あるいは香庄が1単位でも含まれている郷鎮であり、Bの場合には、1単位も含まれていない郷鎮である。

	郷内	北港鎮	口湖鎮	雲林県A	嘉義市	嘉義県A	雲林県B	嘉義県B	台北縣市	高雄縣市	その他	不明	計
1905-14	0	3	0	1	2	1	0	3	0	0	0	1	11
1915-24	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
1925-34	6	2	0	3	6	0	1	1	0	0	1	1	21
1935-44	6	4	0	0	5	0	0	0	1	3	1	0	20
1945-54	2	2	0	4	4	1	0	1	1	2	8	0	25
1955-64	1	1	1	1	3	2	1	1	8	7	5	1	32
1965-74	2	2	2	1	5	1	1	0	19	7	9	2	51
1975-84	1	5	0	1	5	0	0	0	32	15	7	9	75
1985-91	1	4	0	0	0	2	1	1	22	3	6	4	44
不明	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	9
計	21	25	3	12	32	7	4	7	83	37	37	24	292

表3 S村K姓遷出者の遷出時年齢の推移

	0-9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳-	不明	計
-1944	7	6	21	13	4	4	1	0	56
1945-64	4	15	25	6	2	3	0	0	55
1965-91	4	17	96	48	5	2	3	2	177
計	15	38	142	67	11	9	4	2	288

表4 S村K姓への婚入者の婚入年代による出身地の推移

凡例：雲林県A及び嘉義県Aは、五股、香庄が1単位でも含まれている行政区域、雲林県B及び嘉義県Bはそれらを1つも含んでいない行政区域を示す。

年代	村内 (a)	郷内 (b)	口湖 郷	北港 郷	雲林 県A	嘉義 県A	雲林 県B	嘉義 県B	台北 縣市 (c)	高雄 縣市 (d)	その 他県 市 (e)	不明	計 (z)	$\frac{(a)+(b)}{z}$ (%) =F	$\frac{(c)+(d)+(e)}{z}$ (%) =G
1894 以前	3	8	3	1	1	0	0	0	0	0	0	6	22	50	0
1895 -190 4	2	6	3	4	2	0	0	0	0	0	0	1	18	44,4	0
1905 -14	1	13	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	20	70	0
1915 -24	1	14	4	2	0	1	0	0	0	0	0	0	22	68,18	0
1925 -34	6	17	3	6	0	2	0	0	2	0	1	0	37	62,16	8,11
1935 -44	3	11	3	4	3	4	1	1	1	0	2	0	33	42,42	9,09
1945 -54	5	9	0	2	0	4	0	1	0	0	2	0	23	60,87	8,70
1955 -64	11	17	6	1	0	4	4	3	1	2	1	0	50	56	8
1965 -74	2	5	3	0	4	3	0	1	2	1	7	1	29	24,14	34,48
1975 -84	5	11	1	3	3	4	1	5	7	3	16	3	62	25,81	41,94
1985 -91	2	1	2	1	2	0	1	1	2	1	2	3	18	16,67	27,78
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	—	—
計	41	112	29	26	15	22	7	12	15	7	31	19	336	45,54	15,77

表5 S村K姓婚出者の婚出年代による婚出先の推移

凡例：雲林県A及び嘉義県Aは、五股、香庄が1単位でも含まれている行政区域、雲林県B及び嘉義県Bはそれらを1つも含んでいない行政区域を示す。

年代	村内 (a)	郷内 (b)	口湖 郷	北港 郷	雲林 県A	嘉義 県A 市	雲林 県B	嘉義 県B	台北 縣市 (c)	高雄 縣市 (d)	その 他県 市 (e)	不明	計 (z)	$\frac{(a)+(b)}{(z)}$ (%) =F	$\frac{(c)+(d)+(e)}{(z)}$ (%) =G
1895	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	50	0
-1904															
1905-14	0	8	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	13	61,54	0
1915-24	1	6	1	2	2	1	0	0	0	0	1	0	14	50	7,14
1925-34	3	7	3	9	0	1	0	0	0	0	0	0	23	43,48	0
1935-44	3	10	4	5	2	2	0	0	0	0	2	0	28	46,43	7,14
1945-54	2	12	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0	21	66,67	0
1955-64	9	15	3	5	1	0	6	0	5	0	4	0	48	50	18,75
1965-74	2	2	0	1	0	2	0	3	2	4	5	0	21	19,05	52,38
1975-84	1	5	1	0	1	5	0	0	10	0	6	1	30	20	53,33
1985-91	0	1	1	1	0	0	0	0	2	1	2	0	8	12,5	62,5
計	21	67	14	30	7	14	7	3	19	5	20	1	208	42,31	21,15

表6 馬鳴山鎮安宮の〈十二王爺〉

(出典：馬鳴山鎮安宮管理委員会編 1970)

値年歳科	監科主神	聖誕千秋
子年	張千歳	農曆三月初四日
丑年	徐千歳	農曆八月初三日
寅年	侯千歳	農曆五月初五日
卯年	耿千歳	農曆五月初七日
辰年	吳千歳	農曆三月初三日
巳年	何千歳	農曆八月十二日
午年	薛千歳	農曆五月初六日
未年	封千歳	農曆五月初一日
申年	趙千歳	農曆三月初八日
酉年	譚千歳	農曆十二月初一日
戌年	盧千歳	農曆五月十二日
亥年	羅千歳	農曆正月十二日

表7 仏教儀礼のプログラム (1990年)

月日	時	儀礼内容
農曆十月二十七日	午前8時	発表 請仏 開燈 午供 献香位
	午後	開懺 誥誦
	夜晚	敬 誥誦
農曆十月二十八日	早課	金剛宝卷上卷 誥誦 午供 金剛宝卷下卷 誥誦
	夜晚	敬
農曆十月二十九日	早誥	慶祝千歳聖誕 午供
	下午	普施
	夜晚	送仏謝斗 謝上蒼

表 8 台湾の寺廟における主要な主祀神歴年資料統計 (出典：余光弘 1982)

1918年			1930年			1960年			1966年			1975年			1981年		
主神別	寺廟数	百分比	主神別	寺廟数	百分比	主神別	寺廟数	百分比	主神別	寺廟数	百分比	主神別	寺廟数	百分比	主神別	寺廟数	百分比
福德正神	669	19,25	福德正神	674	18,41	王爺	677	17,63	王爺	556	13,26	王爺	747	13,99	王爺	753	13,59
王爺	447	12,86	王爺	534	14,59	觀音菩薩	443	11,54	福德正神	449	10,71	觀音菩薩	565	10,58	觀音菩薩	578	10,44
天上聖母	320	9,21	天上聖母	335	9,15	天上聖母	383	9,97	觀音菩薩	428	10,21	天上聖母	494	9,25	天上聖母	510	9,21
觀音菩薩	304	8,75	觀音菩薩	329	8,99	福德正神	327	8,52	天上聖母	381	9,08	釈迦牟尼	480	8,99	釈迦牟尼	499	9,01
玄天上帝	172	4,95	玄天上帝	197	5,38	釈迦牟尼	306	7,97	釈迦牟尼	308	7,34	福德正神	385	7,21	玄天上帝	397	7,17
有応公	143	4,11	閻聖帝君	157	4,29	玄天上帝	267	6,95	玄天上帝	270	6,44	玄天上帝	375	7,03	福德正神	392	7,08
閻聖帝君	132	3,80	三山国王	121	3,31	閻聖帝君	192	5,00	閻聖帝君	192	4,58	閻聖帝君	334	6,26	閻聖帝君	356	6,43
三山国王	119	3,42	保生大帝	117	3,20	保生大帝	141	3,67	保生大帝	139	3,31	保生大帝	160	3,00	保生大帝	162	2,92
保生大帝	109	3,14	釈迦牟尼	103	2,81	三山国王	124	3,23	三山国王	129	3,08	三山国王	133	2,49	三山国王	135	2,44
三官大帝	72	2,07	有応公	86	2,35	中壇元帥	94	2,45	中壇元帥	94	2,24	中壇元帥	114	2,14	中壇元帥	115	2,08
中壇元帥	66	1,90	清水祖師	83	2,27	神農大帝	80	2,08	神農大帝	81	1,93	神農大帝	114	2,14	神農大帝	112	2,02
神農大帝	60	1,73	三官大帝	82	2,24	清水祖師	63	1,64	清水祖師	68	1,62	清水祖師	83	1,55	清水祖師	99	1,79
釈迦牟尼	56	1,61	中壇元帥	73	1,99	三官大帝	60	1,56	三官大帝	67	1,60	三官大帝	76	1,42	玉皇大帝	81	1,46
開漳聖王	53	1,52	神農大帝	66	1,80	開台聖王	57	1,48	有応公	62	1,48	玉皇大帝	74	1,39	三官大帝	77	1,39
玉皇大帝	51	1,47	開台聖王	57	1,56	開漳聖王	53	1,38	開台聖王	56	1,34	開台聖王	69	1,29	開台聖王	70	1,26
開台聖王	48	1,38	開漳聖王	50	1,37	元帥爺	47	1,22	開漳聖王	55	1,31	開漳聖王	56	1,05	開漳聖王	56	1,01
文昌帝君	39	1,12	大衆爺	47	1,28	三宝仏	46	1,20	城隍	44	1,05	開漳聖王	54	1,01	城隍	55	0,99
清水祖師	36	1,04	文昌帝君	30	0,82	有応公	46	1,20	元帥爺	44	1,05	城隍	54	1,01	孚佑帝君	52	0,94
元帥爺	36	1,04	義民爺	30	0,82	城隍	44	1,15	玉皇大帝	41	0,98	元帥爺	49	0,92	王母娘娘	51	0,92
城隍	29	0,83	元帥爺	29	0,79	玉皇大帝	38	0,99	三宝仏	41	0,98	廣澤尊王	46	0,86	廣澤尊王	50	0,90
計	2961	85,18	計	3200	87,41	計	3490	90,87	計	3505	83,57	計	4462	83,59	計	4600	83,05
寺廟総数		3476	寺廟総数		3661	寺廟総数		3840	寺廟総数		4786	寺廟総数		5338	寺廟総数		5539

表9 台南県安定郷蘇厝長興宮・西港郷慶安宮の〈十二王爺〉

(出典：黄文博 1994:11)

科別 王爺	丑年			辰年			未年			戌年		
	大千歳	丑	余	文	辰	吳	友	未	封	立	戌	盧
二千歳	子	張	全	卯	耿	通	午	薛	温	酉	譚	起
三千歳	寅	侯	彪	巳	何	仲	申	趙	玉	亥	羅	士友

表10 台南県佳里鎮金唐殿の〈十二王爺〉(出典：黄文博 1994:11)

科別 王爺	子年			卯年			午年			酉年		
	大千歳	子	張	全	卯	耿	通	午	薛	温	酉	譚
二千歳	亥	羅	士友	寅	侯	彪	巳	何	仲	申	趙	玉
三千歳	丑	余	文	辰	吳	友	未	封	立	戌	盧	德

表11 「十二值年瘟王」(『法海遺珠』・文検・馬鳴山鎮安宮十二王爺)の比較

『法海遺珠』		道士の文検(康 1991より)		『馬鳴山鎮安宮沿革誌』(馬鳴山鎮安宮管理委員会 1970より)	
符の番号	姓名	值年	瘟王名	值年歳科	監科主神
第一	張全	子年行瘟	張全大王	子年	張千歳
第二	余友	丑年行瘟	余文大王	丑年	徐千歳
第三	侯彪	寅年行瘟	侯彪大王	寅年	侯千歳
第四	耿通	卯年行瘟	耿通大王	卯年	耿千歳
第五	薛温	辰年行瘟	吳友大王	辰年	吳千歳
第六	吳文	巳年行瘟	何仲大王	巳年	何千歳
第七	趙玉	午年行瘟	薛温大王	午年	薛千歳
第八	何冲	未年行瘟	封立大王	未年	封千歳
第九	封立	申年行瘟	趙玉大王	申年	趙千歳
第十	盧德	酉年行瘟	譚起大王	酉年	譚千歳
第十一	羅大文	戌年行瘟	盧德大王	戌年	盧千歳
第十二	何仲	亥年行瘟	羅士友大王	亥年	羅千歳

表12 五方鬼主 (李 1994:377-378)

方位	姓名	病気の種類
東方青炁鬼主	姓劉名元達	領萬鬼、行惡風之病
南方赤炁鬼主	姓張名元伯	領萬鬼、行熱毒之病
西方白炁鬼主	姓趙名公明	領萬鬼、行注炁之病
北方黒炁鬼主	姓鐘名士季	領萬鬼、行惡毒、霍乱、心腹絞痛之病
中央黄炁鬼主	姓史名文業	領萬鬼、行惡瘡、疔腫之病

表13 先行研究に見る〈神〉／〈祖先〉／〈鬼〉

		〈神〉	〈祖先〉	〈鬼〉
1	生前の徳	高い	×	×
2	系譜の連続性	×	あり	なし
3	死の異常性	×	なし	あり
4	居住空間	天上界	陰 間	
5	現世との対応関係	官僚	宗族のメンバー	よそ者・山賊・乞食
6	祭祀時期	農曆7月を除く		農曆7月
7	祭祀場所	屋 内		屋外
8	供物（食物）	不完全な調理	完全な調理	
9	供物（紙銭）	金 紙	銀 紙 +経衣	

表 14 「嘉雲平原地域」 およびその周囲の地域における漢人居民の祖籍地

(出典：台湾総督府官房調査課 1928)

(単位：百人)

街庄	福建省						福建省 合計	広東省
	泉州府			漳州府	その他			
	安溪	同安	三邑					
虎尾郡	西螺街	0	1	2	198	0	201	0
	虎尾庄	22	48	36	38	0	144	1
	二崙庄	0	0	0	128	0	128	1
	崙背庄	0	6	107	51	0	164	0
	海口庄	0	15	164	0	0	179	0
	土庫庄	17	31	57	38	6	149	0
北港郡	北港街	0	2	191	1	0	194	0
	元長庄	0	0	111	28	0	139	0
	四湖庄	0	0	138	0	0	138	0
	口湖庄	0	19	62	63	0	144	0
	水林庄	0	108	28	46	0	182	0
東石郡	朴子街	26	44	69	22	0	161	0
	六脚庄	148	17	29	33	0	227	0
	東石庄	45	64	56	34	0	199	0
	布袋庄	36	56	115	7	0	214	1
	太保庄	2	78	12	0	0	92	0
	鹿草庄	34	41	10	29	0	114	0
斗石郡	大埤庄	5	25	3	69	5	107	1
	古坑庄	0	0	0	126	5	131	27
	斗南庄	0	2	5	134	11	152	5
嘉義郡	嘉義街	27	25	101	225	5	383	7
	民雄庄	0	0	0	176	0	176	0
	新港庄	0	4	8	135	3	150	7
	溪口庄	2	7	1	34	2	46	42
	大林庄	30	2	3	59	7	101	43

注：「三邑」とは、恵安県、晉江県、南安県を指す。

表 15 19 世紀末の〈五股会〉所属村落の人口
(倪贊元 1894 より作表)

村落名	戸数 (戸)	人口 (人)
馬鳴山	38	187
呂厝	74	339
新厝仔	33	187
芋頭厝	36	135
有才	26	151
同安厝	99	500
六塊寮	29	122
月眉	82	251
馬祖埔	29	138
計	446	2,010

註：呂厝は現、復興。

新厝仔は現、新厝。

芋頭厝は現、芋頭。

同安厝は現、同安。

媽祖埔は現、馬埔。

現在の昌南は同安厝の中に含まれる。

表 16 〈五股〉構成村落の「公廟」創立以前

股	集落名	廟名	創建年代	主神名	主神の来臨年代と理由	創建以前の主神安置場所
主普股	月眉	月興宮	1988	丁府八千歳	1763年、張姓の人が晋江県から携帯（黄夢熊 1995）	毎年新炉 主宅へ移す
	田洋	合安宮	1986 （奠基）	七府千歳	17世紀後半（1661以後）ある人（陳姓）が出稼ぎ先の安平より分霊	某氏宅
主会殿	馬埔	聖母宮	1997	四媽 （媽祖）	1989年、麦寮拱範宮の巡礼団に参加して大陸へ行き、分霊	毎年新炉 主宅へ移す
	六塊寮	泰安宮	1980 （完成）	蘇府千歳	100年位前？ある行商の靴直しが置いていった	張氏宅
	褒忠	聚宝宮	1984 （奠基）	蕭太傅	1779年、コレラ流行時に光大寮から蕭太傅を招き、靈験あらたかな為、1792年に分霊	某氏宅
主壇股	新厝	參天府	1995年	池府王爺	約300年前、祖先が同安県馬巷元威殿より分霊	毎年新炉 主宅へ移す
	芋頭	土地公廟	？	土地公	？	？
	有才	福興宮	1935	趙府元帥	乾隆年間（雲林県仏教支会編 1972）	某氏宅
北安宮		1990 （破土）	西嶽大帝・九天玄女	1915年の西来庵事件の為逃亡してきた呉姓の大陸人が携帯	張氏宅	
主醮股	同安	開安宮	1863	李王爺	1863年、周姓のある人が夢で啓示を受ける	—
三官主股	馬鳴山	鎮安宮	1662	老朱王爺	？	？
	昌南	南天宮	1964	王孫大二三使	17世紀後半、祖先の遷台時に携帯。彰化二林経由で本村へ	毎年新炉 主宅へ移す
	復興	三安宮	1989 （破土）	九天玄女	1915年の西来庵事件の為逃亡してきた呉姓の大陸人が携帯	呉氏宅→ 張氏兄弟宅

文献の注記のないものは、聞き取り調査による。

表 17 台西郷安西府〈八股〉(全国寺廟整編委員会 1989 より作表)

股名	構成村落
街仔股	「台西村(街仔中山路)」「和豊村(草寮、南公館、頂新興、下新興)」
客厝股	「台西村(頂中庄・下中庄)」「海北村」「海南村王爺埔」「山寮村(萬厝第2・3・4・5鄰)」
塩埔股	「海口村、塩埔、海口厝」「海南村、六塊厝」
什張犁股	「光華村#」「山寮村(頂山寮・下山寮・萬厝第1鄰)」
五港股	「五港村(五条港)」「富琦村(普令厝)#」
瓦厝股	「五港村(瓦厝)」「富琦村(圳頂)」
崙下股	「富琦村(菁埔・本村第5鄰から13鄰)」「永豊村第1鄰から10鄰」「和豊村第8鄰から11鄰」
崙頂股	「富琦村本村第1鄰から4鄰」「永豊村第11鄰から20鄰」「和豊村第1鄰から7鄰、第12鄰から16鄰」

表 18 麦寮郷拱範宮〈五大股〉(麦寮郷拱範宮管理委員会編 1989 による)

股名	構成村落
主股	麦豊#、麦津#(以上、麦寮市街地)、光代(大)寮、興化寮#、保安林(以上、麦寮郷)
東南股	田洋、新湖、新厝仔、馬鳴山(以上、褒忠郷)、昌南、馬祖埔、同安(以上、東勢郷)
東北股	興化厝、山寮、架仔頭(以上、麦寮郷)、大有#、五魁#、阿勤#、中厝、旧庄、草湖#、豊栄(以上、崙背郷)
西南股	安南#、新許厝寮#、下新吉庄#、阿坤厝#、四美(以上、東勢郷)、蚊港、湖仔内#、三姓寮(以上、台西郷)、海豊、外湖寮、後安#、楊厝寮#(以上、麦寮郷)
西北股	瓦(石+搗一手)、霄仁厝、崙後、圳寮、下橋頭、北橋頭、新吉、施厝、雷厝、三盛、中山、許厝寮(以上、麦寮郷)

表 19 国姓公〈五房股〉(許・蔡 1995より作表)

房	村落	備考
長房	四湖郷の広溝厝、三條崙	もとは(艸+汭)仔寮を含んでいたが、当地の鄭姓の多くがよそへ移住したため、後に脱退。
次房	虎尾鎮下湍(現在の延平里4-7鄰)、大埤郷後溝(現在の豊田村の一部)	下湍の男子が後溝に婿養子に入った後、後溝も股に加入。
三房	斗南鎮石龜溪(現在の石龜里、石溪里)、靖興(南靖厝)	もとは、蓮芳の鄭姓が参加。後に祭祀時の宴会費用を軽減するために、石龜溪、南靖厝を誘い込んだ。ただし、現在蓮芳は不参加。
四房	頂田尾、下田尾、廓仔(大埤郷聯美村)、三塊厝(興安村)、潭肚寮(嘉義県溪口郷遊西村1-7、10-11鄰)	もとは土庫街の鄭姓が奉祀。のちに下田尾、三塊厝、潭肚寮へ移住。その後頂田尾、廓仔に拡大し、聯美村全てが股に加入。
五房	崙背郷の大有村	もとは、現在の褒忠郷埔姜崙附近にあたる洪厝寮の鄭姓が奉祀。乾隆中葉の洪水で村が流された後、鄭姓の人々は現在の麦寮郷山寮に移住。しかし、成人男子が早くに亡くなったため、大有村に婚出した女性のところへ祭祀を委譲。1903年からは、大有村を挙げて共同崇拝することとなった。

附録 I 台湾における〈王爺〉一覧

本附録は、台湾で代表的な「王爺」と呼ばれる神及び、「王爺」と呼ばれる場合もある神を、できるだけ網羅的に収集し、その由来・素性について筆者のわかる限りで解説をほどこしたものである。それらの中には、本論文の本文においても取上げたが、劉枝萬が「王爺」に付会したもの、と解釈した様々な靈魂も含まれている。これらの一つ一つについて、劉枝萬は解説を加えているわけではなく、また台湾のどの地方でそれらを祀る廟があるのか明らかにしていない。そこで、仇徳哉(1985)など、比較的最近にまとめられた、非常に多くの神についての由来の説明を記した書物などを参考にした。この附録から、台湾では、実に多種類にわたる多様な氏素性を持つ靈魂が「王爺」と呼ばれることが理解されるだろう。この他、資料の収集範囲を中国大陆にまで広げれば、おそらく更に多くの靈魂が付け加わるものと思われる。本文で既に、筆者の調査から、三忠王、開漳聖王、北山尊王などが王爺とも呼びうることを明らかにしたが、今後、更に調査を続けて行く事で、リストはもっと長くなる可能性も残されている。今回は、大陸での調査はまだ一部しか行っていないので、リストには含めなかった。

A. 360 進士系統の「王爺」:

本論第4章2.(馬鳴山鎮安宮の事例)、本論第5章1.(小琉球嶼、曾景来 1938、増田福太郎 1975)を参照。

B. 温王爺系統:

温王爺は、姓を温、名を鴻、字を徳修といい、山東済南府歴城県白馬巷人で、隋の煬帝大業五年(609年)生まれ。彼は、唐の太宗李世民的時代、捨て身で太宗を難から救った。太宗を救ったのは彼を初めとする三十六人で、温鴻がもっとも功があったという。太宗は彼等三十六人に二甲進士の身分を与え、あわせて温を山西知府に任じた。当時、このあたりは盗賊が多く出ており官兵では押さえきれなかったため、太宗は温鴻に軍を率いて討伐させ、盗賊の乱を平らげたという。温鴻はこの功績によって王爺に封じられ、その後三十六進士は太宗の命により天下を巡行した。しかし、その途中彼らは不幸にも海上で難に遇った。太宗は功臣を失ったことをたいそう悲しみ、彼等を「代天巡狩」に追封し、全国に廟を建てて奉祀する様、詔を発した。また、巨大な船を作り、船には「遊府吃府、遊県吃県」と記して、「温王船」と名づけ、三十六進士の位牌を奉じ、醮を執り行って海に流し、あわせて天下にもしも温王船がたどり着いたら官民一体となってこれを奉迎し祭祀を行うようにとの勅を下した。温王爺は閩浙沿海地域にしばしば顕霊して難を救ったため、漳州、泉州の庶民が信仰し、彼等が台湾の東港に移住してきたときも、温王爺の廟を建てたという(康豹 1997:78-79)。

C. 五福大帝:

本論第5章2.参照。

D. 池府王爺:

D-1: 南京人、池然。萬曆三年(1575年)の挙人。武進士及第。漳州に赴任する途中、同安馬巷付近で玉皇上帝が天使を使って瘟葉を漳州でばら撒こうとしたのを知り、瘟まめを呑み込んで死亡した。天使が天庭に帰ってこのことを報告したので、代天巡狩の称号を得た(三尾 1997:171、全国寺廟整編委員会 1991:12)。

D-2: 池文魁。唐朝の進士かつ忠臣。時の皇帝が池府王爺に人民を保護するように命じたところ、効験があったので、民衆に広く尊崇されるようになった(曾景来 1938:125)。

E. 池・李・朱・刑・金王爺：

科挙受験のため、池・李・朱・刑・金姓の五人が途中泉州に泊した。このとき、数人の疫病神が井戸に疫病を流行させようと毒を投じた。それを知った五人は驚いて人々の災難を救うことを天に祈って、毒を投じた井戸に身を投げたため、疫病の流行を免れた。後世の人がこの五人をまつり、五府王爺という（増田 1975:26-27）。

F. 邱・呉・温王爺：

唐朝の進士。忠義廉節。死後王爺として祀られた（曾景来 1938:125）。

G. 呉王爺：

呉姓の三人の兄弟。漁業の神として祀られた（曾景来 1975:125）。

H. 三府王爺：

池、李、朱の三兄弟は樂をよくし、技神に入った。時の皇帝がこの三人を召し、樂を奏さしめたが、天才の妙技に聴衆は驚倒した。皇帝は、これは人ではなく、鬼神の仕業だろうとして、彼らを斬ろうとした。左右の者達が皇帝をいさめたが、皇帝は聞き入れず、ついに、彼らを斬ってしまった。彼らの靈魂は天に上り、天公から王に封じられ、その命をうけて下界にくんだり、諸人の善悪を監査する（増田 1975:27）。

I. 朱王爺：

李世民の360進士の一人（曾景来 1938:125）。

J. 李王爺：

元来職業を有せず、乞食として諸方を徘徊中に、張天師のために馘首せられた。張天師は首を箱に納めて海に流したが、他の乞食に拾われた。これを聞いた遠近の乞食の相寄るもの360人が、その首を箱におさめ、台湾皇帝（? : ママ）のもとに至り、その首を捧げ、一同の飢餓を告げて食を求めた。皇帝はその首を検分した後、乞食に向かって、将来この首を神に祀るべしといい、かつ王爺の称号を授けた（増田 1975:27）。

K. 鄭成功：

本論第5章3. 参照（連 1921、蔡 1989、黄 1997 など）。

L. 西秦王爺：

唐明皇（玄宗 西暦712-755年）。即位後、姚崇（後出）、宋璟等を重用して、国の安定をもたらした。歌舞音曲を好み、後宮に舞台を造り、芸人を招聘して昼夜休まず演じさせた。彼等が練習した場所は「梨園」と呼ばれたため、後に、玄宗は、「梨園開山祖」とも呼ばれた。しかし、玄宗は安祿山の乱で長安を追われ、帝位を太子の李亨に譲り、西蜀に亡命して「太上皇」となったため、西蜀の旧名である「西秦」をとって、「西秦王爺」と呼ばれるようになった。「西秦王爺」は、台湾では、北管戲福祿派の主祀神となっている。いわば、職能神である。ちなみに、西皮派では、田都元帥雷海青を祀る。台湾には、六字（台北県三字、台中県一字、彰化市一字、高雄市一字）がある（黄文博 1994:7）。

M. 祖先神としての王爺

ある宗族の祖先が〈王爺〉となる、というケースは、中国大陸福建省旧泉州府所屬地域には、比

較的多く見られる。N. で紹介する②も、当初は蕭姓のみが祭祀していたらしい。地域への貢献者としての〈王爺〉は、もとは一族の繁栄に寄与したり、高官となった祖先が〈神〉化することによって、宗族を超えて祭祀されるようになったものと思われる。

M-1. 謝水藍：

1899年台南県永康郷生まれ。台湾総督府医学専門学校（後の台湾大学医学院）、故郷に帰り益寿病院を開設し、公学校の校医なども兼任し、医術を以って人を救い、尊敬されていた。日本統治時代には、大湾第三保正、台南州協議会会員、大湾保正聯合会会長、新豊郡医師公会会長、などを歴任した。また、戦後も永康郷民代表会主席、台南県参議員、永康郷農会理事長他多数の要職についた。民国四十一年（1952年）、亡くなるとともに、村の人々は彼が神になったと見なした。国聖宮に祀られている謝府千歳は、この謝水藍を祀ったものだという（黄文博 1994:7-8）。

N. 英靈王爺：

（以下、黄文博 1994:8）

- ① 清王爺：明初の救駕、李文魁。新竹県新豊郷普元宮にまつられている。
- ② 蕭王爺：漢代の太傅であった蕭望之。雲林県台西郷聚安宮に奉祀。及び、漢初の名相、蕭何。雲林県麦寮郷鎮西宮に奉祀。
- ③ 姚王爺：唐代の名相姚崇。武則天などの宰相を務めた。雲林県虎尾鎮姚正宮に奉祀。
- ④ 徐王爺：唐代の軍師徐茂公。高雄県永安郷天文宮に奉祀。
- ⑤ 伍王爺：唐代南陽侯伍雲召。高雄市塩埕区沙多宮に奉祀。
- ⑥ 何王爺：唐代進士何仁傑。高雄県林園郷靈低殿に奉祀。

O. 劉枝萬（(1966) 1983:227-228）において「瘟神」以外で王爺と呼ばれうるとされたもの：

0-1-1. 三山国王：

台湾では、客家人の信仰する神。広東省潮州府の独山、明山、巾山。唐代に潮州で起きた反乱で、政府軍が鎮圧に苦慮していた時、三山が靈威をあらわして親征した皇帝の軍を助けたので、反乱を鎮圧できた。そこで皇帝は勅を下して、三山の神を三山護国王に封じたと言う。しかし、別の説によれば、南宋最期の皇帝が、反乱の鎮圧に向かったとき、反乱軍に敗れ、ようやくの思いで潮州附近にたどり着いたものの、大河が渡れず、武運の尽きたと思ったとき、対岸の三山にそれぞれ軍旗が翻っているのが見えたので、必死に救いを求めて祈ったところ、対岸から馬がやってきて皇帝を助けたところから、これらの山を三山国王と尊称して祀るようになったという（窪 1986:300-301）。

0-1-2. 火徳星君：

火の神。祝融氏説や、「回祿」説等あり。現在台湾でこれを主神とする廟は、一字のみ（台北市）といわれている（仇徳哉 1985:913）。

祝融は、顓頊氏の子、上古三皇の一で、人々に火の使用法を教え、野獣を駆逐したり金属を鑄造する方法を教えたという。祝融は、万物を作ることができるが、一度コントロールし損ねると、無限の災禍を及ぼすという。燧人氏という説もある。燧人氏は、木を擦りあわせて火をおこす方法を発明したことに由来する名前。「回祿」が火の神になった由来は不明。「回祿之災」とは火災を指す（林進源 1994:116-117）。

0-1-3. 中壇元帥：

『封神演義』によると、殷の紂王の武将李靖は、道術の修行をし、五行の遁法を会得していた。そこで、紂王は李靖を陳塘関の総指揮官に任命した。彼には三人の子供があったが、三人目は肉塊であった。李靖が怪しんで剣で割ると、きれいな子供がでてきた。三日目に長老がきて、哪吒と名づけ、将来必ず名をあげるといった。彼は七歳の時に風火車を発明して、戦争でこれに乗って出か

けた。また、常に混天環と火尖鎗を武器とした。父は殷を、彼は周の武王を助けたが、父は子の敵ではなかった。太乙真人が玲瓏座を与え、父子で武王を助けたので、周の勝利となり、父子四人は成仙した。哪吒は太子爺とも呼ばれ、玉皇の駕前の大羅仙の生まれ変わりと言われている。大羅仙は身長六丈、金環を冠り、三頭九眼八臂あり、口から青雲を吐き、足は磐石をふみ、大喝すれば雲が下がって大雨を降らすことができた。玉皇は、世に魔神が多いのを嘆き、彼を下して魔神を退治させようとして、李靖の子にしたという（窪 1986:264-266）。

0-1-4. 境主公：

土地の守護神。地基主と同義といわれることもある。地基主とは、土地の開拓者でありながら、子孫がいないために、子孫に祀られる代わりに、その屋敷を受け継いだ他者によって祀られる、一種の厲鬼である。土地公に職掌は近い。泉州人の寺廟に祀られることが多い（仇徳哉 1985:1027）。

0-1-5. 靈安尊王：

青山王とも。本山が、泉州府惠安県青山にあるので。三国東呉孫権の武将張滾。孫権に泉州惠安を鎮守するよう命じられ、仁政をしいた。惠安県民は彼を生き神として尊崇し死後は、県民が彼のために「青山廟」を建てた。約700年余り後、宋太宗年間、進士の崔知節が惠安県令に任じられ、青山廟に参拝した折、墓石が倒れ、「太平興国間、古県本惠安、今逢崔知節、送我上青山。」という字が現れた。崔知節は在地の紳商を集め、張の墓を青山麓の後ろに移し、青山宮を建てて定期的に参拝した。南宋高宗時、金の兵を采石磯で破ったのは張の助けがあったからと言われており、高宗は彼を「靈安尊王」に封じたといわれ、これ以後、青山王は泉州人の守護神となった。台湾では、嘉慶年間に萬華で瘟疫が流行したとき、福建から青山王の神像を招いてきて、瘟疫を鎮圧してもらった。

0-1-6. 広澤尊王：

泉州出身者の崇拝する神。唐代名将郭子儀の子孫と言われる郭忠福。幼時に貧しかったので、牧童となった。彼を雇った主人は守銭奴で、ある時風水を見てもらった地理師に、トイレに落ちて死んだ羊を料理して出した。怒った地理師は、郭にだけ父母の墓地としてよい風水や、神になる方法を教え、雇い主の方は、蜂に刺されて死ぬように仕組んだ。人々は、郭が神なったことを神秘と捉え、寺に祀った（窪 1986）。別種の伝承では、郭が樹上に不動で数ヶ月も座っていても、体に温もりがあったので、人々が不思議に思い、神として祀った。後に、夢に現れて雍正帝の痘瘡を治したので、「痘神」として祀られた（林進源 1994:334-335）。

0-1-7. 有応公：

子孫のいない孤魂、不自然な死を遂げた人の魂。

0-2-1. 馬援：

紀元前14年生－西暦49年卒。字を文淵、後漢、茂陵人。建武十一年（西暦35年）、隴西太守に任ぜられる。建武17年（西暦41年）伏波將軍に任ぜられ、交阯（趾）征伐に功があり、新息侯に封じられた、後に、武陵の五溪蛮を攻撃中に病で陣中にて死去（辞海編輯委員会編 1988:329-330）。

0-2-2. 唐明皇（玄宗）：

「L. 西秦王爺」を参照のこと。

0-2-3. 謝安：

320年生－385年卒。東晋中期の宰相。河南人。四十歳を過ぎて官途につき、侍中、吏部尚書にま

で進んで、晋室をよく維持したといわれる。前秦の苻堅が淝水に大軍を率いて迫ると、弟や甥を遣わして大勝し、その後大挙北伐を計画したが、台頭してきた司馬道子に憎まれ、広陵新城に駐している時に病死（外山・日比野編 1984:152）。

0-2-4. 岳飛：

1103年生-1141年卒。南宋の武将。河南人。農民の子に生まれたが、金軍の侵入に対して各地で起った義勇軍に参加して頭角をあらわし、三十二歳で節度使に任ぜられた。しかし、和平論者の宰相秦檜によって、岳飛と他の武将との間の不和や、彼と部下との間の意見の相違につけ込まれ、無実の罪で捕らえられ、毒殺された。後世、異民族金に抵抗した救国の英雄として仰がれるようになった（外山・日比野編 1984:63-64）。

0-3-1. 鄭王爺：

鄭成功の二弟。

0-3-2. 清王爺：

鄭成功の武将。

0-3-3. 余化龍：

施瑯の部下で、康熙三十七年に施瑯と台湾にやってきて現在の台南県山上郷地域に駐留した。井戸を掘り、道を開き、入植者を導きいれて開墾したが、匪賊に殺されたという。ただし、施瑯の部下には、余化龍なる名の人物は実在しない（仇 1985:681、曾景来 1938:126、劉建仁 1968:77-78）。

0-3-4. 施王爺：

福康安の武将。林爽文の乱を鎮圧。

0-3-5. 順正大王：

順王爺、武惠尊王、護国武惠順正大王とも。伝説には、以下の四種があるという。1. 黄姓の祖先で名を武惠という。2. 彭姓で、360人の進士の一人。3. 宋代の姜王爺及び大巡爺などの三勇将。4. 福建省晋江人で、姓は黄、名は不詳。主人のために酒を醸造し、薪が尽きたので、自分の両足を燃料にしたので、翌日美酒ができた。里人はかれの忠義を偲んで、廟を建てたという（仇 1985:694）。

0-3-6. 義愛公：

森川警部。日本統治時代、東石郡に赴任。村人の困窮を見て、税の取り立てを行わず、何度も税金の軽減を上部に申し入れたが聞き入れられなかったため、自殺した。

0-4-1. 邱王爺：

曾景来によれば、邱王爺は鳳山街籬子内龍閣寺の祭神で、邱千灶という福州人。80年前（1850年代？）歩兵として渡台し、死後同地に埋葬されたが、毎夜邱千灶と書かれた堤燈が見えるので、部落民が驚き騒いだ。時に、ある病人が、その墓に祈願したところ靈験があり、まもなく病は全快したと言う（曾景来 1938:27）。ただし、この邱千灶が劉枝萬のいう邱王爺と同一か否かは不明。

0-4-2. 十三王：

不明（五年王爺の一種か？）

資料編

0-5-1. 蕭何：

生年不祥－紀元前193年卒。前漢高祖の功臣。江蘇人。漢の天下統一後に建国の第一の功臣として侯に封ぜられ、後相国となり、現実的政策で漢帝国の基礎を固めた（外山・日比野 1984-162）。

0-5-2. 陳陵：

隋の軍人。安徽人。隋末、杜伏威の農民反乱と戦い、敗死（日外アソシエーツ 1993:465）。

0-5-3. 張巡：

709年生－747年卒。唐中期の武将。河南人（一説に山西人）。開元末進士及第の後、諸官を歴任。安祿山の乱では、兵を起こして賊軍と良く戦ったが、最後は兵器・兵糧が尽き、賊に殺された。死に臨んでも顔色を変えず、死んで鬼となり、賊を殺すと言いつつ放ったという（外山・日比野 1984:226-227）。

0-5-4. 包公：

第4章3.参照。

0-5-5. 鄭成功：

第5章3.参照。

0-6-1. 松王爺：

老榕樹を祀ったもの。台南州東石郡東石庄港乾厝の慶福宮に祀られていた松王爺は、小高い丘の上にたっていて他の榕樹より一段と高い榕樹であった。この枝を取ったり、幹を傷つけたりすれば、その人は腹痛を起して死に至る、といわれていた。しかし、乾隆年間にこの木が枯れたので、村人が祟りを恐れて、この木から神像を作り、除疫を祈願した（鈴木清一郎 1975〔1934〕：371 - 372）。

0-6-2. 樟王爺：

樟樹神。

0-6-3. 山王爺：

山の神。

0-6-4. 金・火・水王爺：

五行による神。台南州東石郡東石庄港乾厝の慶福宮に祀られていた金王爺は、洪水の難を救うという（鈴木清一郎 1975〔1934〕：372）。

0-6-5. 溪・港・潭王爺：

廟址や王船の漂着場所による。

0-6-6. 石王爺：

神像が石で彫刻されていることによる呼称。

0-7-1. 五年王爺：

第4、5章参照。

0-7-2. 天神王爺：

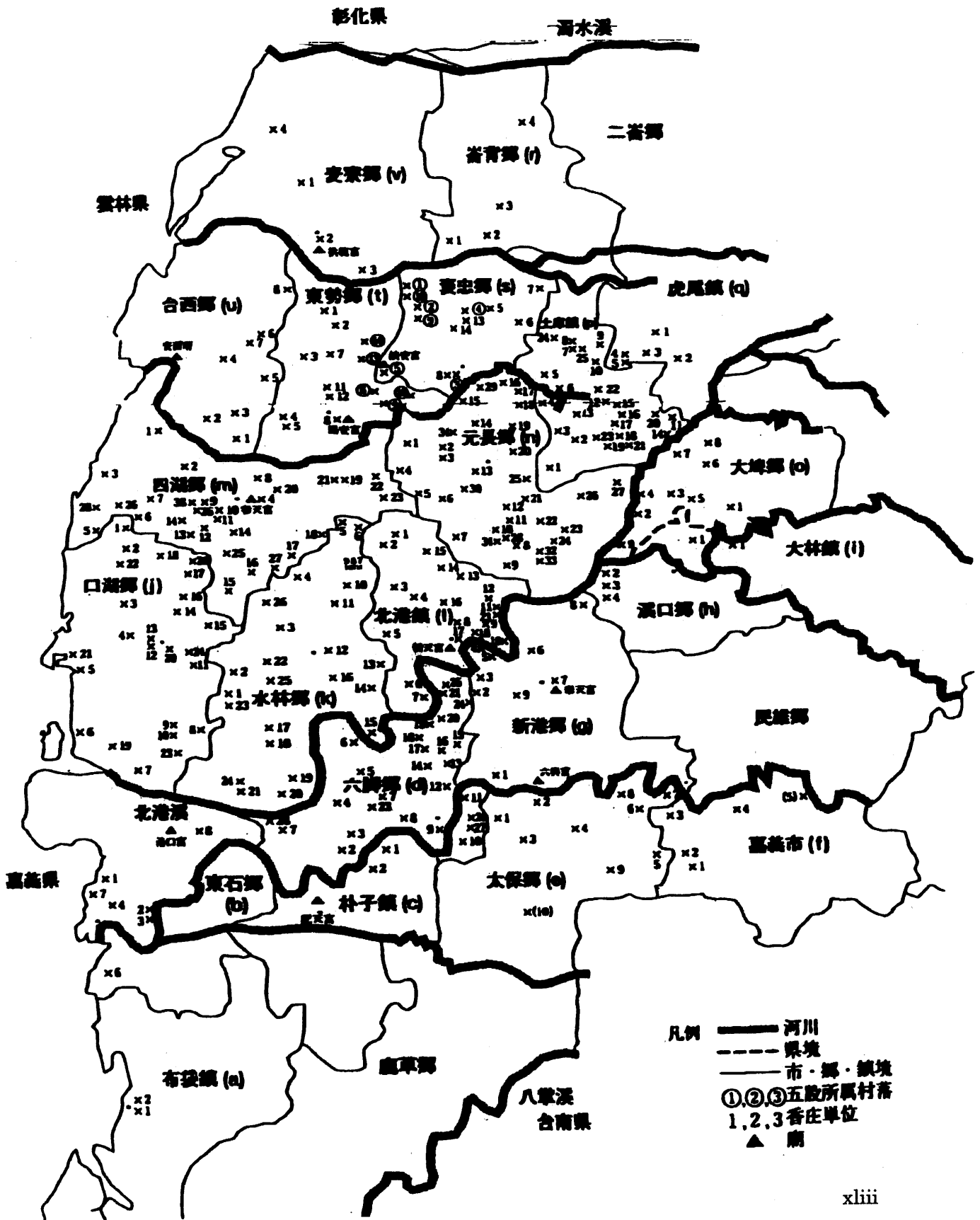
資料編

不明。

0-7-3. 隨駕王爺：

不明。

附錄 II 〈香庄〉位置圖



附録Ⅱ－２ 〈香庄〉名簿（1990年及び1986年）

凡例

1. 本附録は〈香庄〉の名簿であるが、実際には、〈五股〉の諸村落も五年大科では五年王爺を勧請するので、〈五股〉を含んだリストになっている。
2. 馬鳴山鎮安宮からお借りしてコピーした原資料には、下表にまとめたデータの他に、御輿の要不要、法物（呪符等）の数量などが記載されているが、本表では省略した。
3. 本表は、原則として90年時の状況を主として記入し、86年についての情報は、最も右の欄に記入している。
4. 90年時については、借り受ける神の名前が明示して有るものは王爺名のところに記載した。神像には、正身と副身があり、副身は正身の複製。#がついているものは正身、それ以外は副身。
5. 86年については、86年と90年共に勧請している場合には、86年の欄に「○」をつけ、86年の原簿に90年と異なる記載事項があれば、それを同じ欄に記載した。86年についても借り受ける神の名前は、原簿に姓が明示して有るもののみ記載した（#が正身）。
6. 3. の原則にもかかわらず、90年には神像を勧請せず、86年のみに記載があるときには、その詳細な情報は、90年と同じ欄に記載されている。ただし、86年の欄に「※」を記入して、その情報が86年時に関わるものであることを明示した。
7. 「×」は、90年に記載があるが、86年には記載がないものである。
8. 地図NO. に「？」がついているものは、場所を特定できなかったもの。
9. 原資料には、若干の記載漏れ、誤字、所属行政単位の誤った記載などがあり、原簿から正確な地名を同定することができないものもあった。
10. 本表では市・鎮・郷などの区分けは、90年時の行政区分法に従っている。

〔嘉義市〕

地圖 No.	聚落名(或廟名・個人名)	勸請神明期間	王爺名	1986年時
f1	何仔庄影武宮	9.11-9.18	盧	○(9.17-9.20)
f2	大溪里	9.14-9.18	薛#	○(9.12-9.18)
f3	竹村里竹仔腳保德宮	9.15-9.17	侯#	○
f4	北湖里海口寮	9.14-9.17		○(9.15-9.18)
f5	後湖里	9.14(請火而已)		※

〔嘉義縣〕

鄉鎮名	地圖 No	聚落名(或廟名・個人名)	勸請神明期間	王爺名	1986年時
布袋鎮	a1	東宮廟	9.7-9.11	侯#	○
	a2	保安壇	10.9-10.15	侯	○(10.9-10.11)
	b1	型厝寮福安宮	10.16-10.20	譚#	×

東石鄉	b2	永屯村代天府永靈宮	10.7-10.11		○(侯)
	b3	永屯村遊天宮	10.9-10.12		(10.8-10.12) (侯)
	b4	頂寮贊天宮	10.6-10.10	封#	○(10.7-10.9)
	?b5	東石福安宮	11.1-11.7	盧#	○(11.1-11.3)
	b6	網寮村鎮安宮	10.9-10.25	薛	※
	b6	網寮村鎮安宮	10.19-10.25		※
	b6	網寮村鎮安宮	10.21-10.25		※
	b7	塭港村保安宮	8.21-9.?	侯#	※
	b8	下橋埔福安宮	9.20-9.?	薛#	※
朴子鎮	c1	雙溪口福安宮	10.7-10.9	薛、侯	○
	c2	德興里德興宮	10.11-11.16	侯#	※
六腳鄉	d1	古林村村內	10.14-10.16	薛	○(10.13-10.17)
	d2	下雙溪	10.12-10.14	侯	○(10.12-10.15)
	d3	正義村	10.5-10.7		○(10.7-10.9)
	d4	六腳順天宮	10.12-10.16	徐#	○
	d5	魚寮玄天宮	10.9-10.11		○
	d6	竹本村	10.5-10.8		○
	d7	潭墘村	10.7-10.9		○
	d8	溪厝村德龍宮	10.7-10.9	侯	○
	d9	蒜頭永安宮	10.4-10.7	譚#	○
	d10	蒜東村	10.4-10.6		○
	d11	灣北村	10.9-10.11	薛	○
	d12	雙涵村	10.8-10.12		○
	d13	水返溝	10.9-10.12		○
	d14	三義村	10.5-10.8		○
	d15	灣美村新店	10.3-10.6		○
	d16	灣美寮灣美	10.3-10.6		○
	d17	灣美村紫極殿	10.3-10.6		○
	d18	豐美村頂安宮	10.3-10.6		○
	d19	六斗村新興宮	10.4-10.7	薛#	○
	d20	六斗尾	10.17-10.20		○
	d21	蘇厝寮大庄	10.11-10.13		○
	d22	三重村	10.15-10.16	薛	×
	d23	中溝	10.7-10.9	羅	×
	d24	崙陽村	10.12-10.14		○(侯)
	d25	蘇厝村	10.11-10.13		○(10.11-10.14) (侯)
	d26	灣內	10.9-10.11		※
	d27	灣南村	10.9-10.11		※
	d28	古林村通溝仔玄安廟	10.13-10.17		※
太保	e1	田尾村	10.5-10.7		※
	e2	田尾村溪南福興宮	10.7-10.9	吳#	○

鄉	e3	新舊埤村	10.14-10.17	侯	○(10.10-10.13)	
	e4	瓦厝村 26 號福安宮	9.15-9.18		○(9.15) (侯)	
	e5	埤麻腳	11.11-11.14	薛#	○(11.16) (薛)	
	e6	太保南北新村	11.15-11.18	薛#	○	
	e7	北新村溪底寮	9.15-9.18		○	
	e8	麻寮村古恩宮	11.12-11.15		○	
	e9	管事厝安福宮	11.9-11.12	薛	×	
	e10	春厝(珠)仔	10.14-		※	
	新 港 鄉	g1	安和村	9.8-9.11	徐#	○(趙#)
		g2	南港村大崙	10.14-10.16		○(10.15-10.16)
g3		南港村	10.14-10.16	盧	○	
g4		嘉義下灣仔內	10.5-10.7		○(薛)	
g5		板頭村文港長天宮	10.5-10.7		○	
g6		侯庄	10.5-10.7		○	
g7		東興宮	10.14-10.18	薛	○(10.13-10.16)	
g8		埤仔村	10.1-10.12	薛	○(侯)	
g9		六斗仔鎮北殿	10.6-		×	
溪 口 鄉	h1	遊東村	10.10-10.12	薛#	○(10.10-10.13)	
	h2	林腳村鎮亨宮	10.1-10.13	侯#	○(10.1-10.10) (盧#)	
	h3	柴林村	10.1-10.13	何#	○(10.1-10.10)	
	h4	柴林腳	11.3-11.8	吳#	×	
大 林 鎮	i1	陳井寮陳進宮	10.10-10.13	薛#	○(薛#)	

〔雲林縣〕

鄉 鎮 名	地 圖 No.	聚落名(或廟名、個人名)	勸請神明期間	王爺名	1986 年時
口 湖 鄉	j1	下寮村下寮仔	10.10-10.12		×
	j2	下崙福安宮	10.9-10.13	薛	○(10.12-10.14)
	j3	青蚶庄	9.13-9.17	羅#	○(10.12-10.14) (羅)
	j4	港東村信義路 19 號龍臺宮	10.5-10.8	張#	○(9.11-9.15) (侯)
	j5	臺子村天臺宮	10.11-10.14		○
	j6	蚶仔寮福天宮	10.5-10.8		×
	j7	湖口村合天宮	10.12-10.14		○(10.9-10.12)
	j8	後厝村	10.13-10.15		○(10.12-10.14)
	j9	塹 梧順天宮	10.14-10.16	盧#	×
	j10	塹 梧調天府	10.13-10.16		○(10.14-10.17) (李 王)
	j11	過港村北天宮	10.6-10.8	盧#	○(何#)

	j12	下荳仔寮	10.21-10.23		○(10.3-10.6)
	j13	口湖村口湖聖安宮	10.7-10.10	侯	○(10.7-10.11) (侯)
	j14	頂口湖	10.6-10.9		○
	j15	謝厝村順天宮	10.14-10.16		○(9.14-9.17)
	j16	埔南村	8.13		○(8.13-8.14)
	j17	鰲潭	10.24-10.25		○(10.2-10.3)
	j18	沙崙後	10.1-10.28	侯	×
	j19	成龍村安龍宮	9.14-9.17		○(10.5-10.8)
	j20	口湖會水宮	10.12-10.15		○
	j21	金湖村	10.5-10.8	侯	※
	j22	中崙村中安壇	9.9-9.13		※
	j23	水井村奉天宮	10.12-10.13		※
	j24	拔仔腳	10.14-10.16		※
	?j25	大塢寮保安宮	10.15-10.16		※
	j26	埔北村林園	10.3-10.5		※
水 林 鄉	k1	順興村大天宮	10.14-10.17	薛	○(10.13-10.16) (侯#)
	k2	大溝	10.11-10.14		○(10.12-10.14)
	k3	萬興村	10.14-10.16		○
	k4	牛挑灣	10.6-10.9		○(耿#)
	k5	蘇秦寮海豐庄	10.9-10.11		○
	k6	蘇秦寮	10.8-10.11		○
	k7	車港口興隆路 12 號	10.11-10.13		○
	k8	車港村車港	10.11-10.13		○
	k9	車港村	10.11-10.13		○
	k10	西井村	10.1-10.3		○
	k11	春埔村	10.13-10.14		○(9.29-)
	k12	通天府	10.14-10.17		○
	k13	土厝村大庄	10.10-10.12		○
	k14	湖仔內聖安堂	10.7-10.10	耿#	○(薛#)
	k15	溪墘村	10.7-10.10		○(10.7-10.9)
	k16	海埔村	10.11-10.14	盧	○
	k17	蕃薯厝	10.14-10.17	薛	○
	k18	山腳村鏜元府	10.14-10.17		○
	k19	頂蔦松景陽宮	9.8-9.13	薛#	○(9.6-9.12)
	k20	頂蔦松天保宮	10.21-10.24		○(10.13-10.15)
	k21	瓊埔村	10.9-10.12	盧	×
	k22	尖山元天宮	10.11-10.13	吳#	○(10.13-10.15)
	k23	順興村 58 號	11.10-11.14	盧#	×
	k24	樓埔順天宮	10.9-10.11		○(10.12-10.14)
	k25	大尖山村	10.11-10.14	薛	○(10.15-10.18)
	k26	灣西村後寮碧雲寺	10.7-10.9		○
	?k27	代天宮	10.14-10.17		※

北 港 鎮	l1	番溝里	10.5-10.7		○
	l2	大北里	10.4-10.8		○
	l3	好收里	10.11-10.14		○
	l4	口庄	10.9-10.12	譚#	○
	l5	樹腳里	10.1-10.3		○(薛#)
	l6	扶朝里鎮安壇	10.11-10.14	張#	○
	l7	水埔里	10.11-10.14	羅#	○
	l8	新街里	10.1-10.3		○
	l9	新厝里	10.11-10.14		○
	l10	後溝里 11 鄰灣內 46 號	10.12-10.13	耿#	○(10.10-10.11)
	l11	後溝里	10.11-10.14		○
	l12	府番里	10.14-10.15		○(10.14-10.16)
	l13	草湖侯天府	10.13-10.16	薛	○(10.14-10.16)
	l14	奄豬社	10.8-10.11		○(10.7-10.9)
	l15	溝皂里	10.6-10.9	薛	○
	l16	劉厝里	10.8-10.11		○
	l17	聖安宮	10.14-10.17	薛#	○(侯)
	l18	沙仔崙	10.14-10.17	薛	○
	?l19	賜福堂	10.9-10.12		×
	?l20	順天宮	10.23-10.26	薛#	×
	l21	後溝里灣內 41 號	9.4-9.6	耿#	×
	?l22	三重	10.11-10.13		※
	?l23	北港鎮內一同	10.13-10.17		※
四 湖 鄉	m1	林厝寮	10.4-10.9		○(10.14-10.22)
	m2	溪尾普天宮	10.4-10.9		○
	m3	三條崙海清宮	10.11-10.14		○(10.6-10.9)
	m4	參天宮	9.30-10.3	薛#	○(侯#)
	m5	迳仔寮普天宮	10.1-10.12		○(10.1)
	m6	三姓寮新興宮	10.6-10.10		○
	m7	飛沙	10.5-10.8	羅#	○(10.6-10.9)
	m8	東庄安溪寮普安宮	9.30-10.3		○(9.29)
	m9	中羊稠	10.3-10.6		×
	m10	東羊稠	10.2-10.5		×
	m11	羊稠村山寮	10.7-10.9		×
	m12	內湖三塊厝	10.3		○
	m13	內湖村內湖	10.3-10.5		○
	m14	內湖村下桂山	10.8-10.11		○
	m15	埤尾村	10.10-10.13		○(10.13-10.16)
	m16	蔡厝村	10.12-10.15		○(10.13-10.16)
	m17	下鹿場村	10.9-10.11	侯	○(盧)
	m18	頂中鹿場	10.9-10.11		○
	m19	溪底村西勢寮	10.12-10.14		○
	m20	保長湖保安宮	9.13-9.19	盧#	○(9.29-10.3)

資料編

	m21	沙崙腳	10.11-10.13	盧	○(侯)
	m22	溪底村	10.14-10.16		○
	m23	魚寮村	10.12-10.15	薛	○
	m24	湖寮村頂溝仔	10.2-10.4		○
	m25	湖寮村	10.3-10.5		○
	m26	崙南村新厝街	10.11-10.14		○
	m27	蕭厝庄	10.9-10.11		○
	m28	羊稠厝	10.6-10.9		○
	m29	廣溝厝	9.15-9.19		※
	m30	西羊稠	10.1-10.4		※
元 長 鄉	n1	合和村山川路 20 號	10.15-10.16		○
	n2	合和村	10.16-10.17		○(10.14-10.16)
	n3	合和村合和 13 號	10.14-10.16		○(10.14-10.17)
	n4	五塊寮	10.7-10.10	趙#	○
	n5	潭西村	10.10-10.12	薛	○
	n6	潭東村	10.10-10.12		○
	n7	西庄村	10.5-10.6		○
	n8	下寮村	10.10-10.11		○
	n9	本湖仔內	10.11-10.12		○
	n10	龍岩厝	10.15-10.17		○
	n11	頂寮	10.12-10.13	趙#	○
	n12	頂寮村中坑	10.8-10.9		○
	n13	元長鯨峯宮	10.15-10.18	侯#	○
	n14	山內村葱仔寮古安宮	9.14-9.16		○
	n15	山仔內南天府	10.23-10.25		○
	n16	後湖村 6 鄰後湖 29 號	9.23-9.24	耿#	○
	n17	後湖村中湖	9.23-9.24		○
	n18	後湖村十八甲	10.18-10.19		○
	n19	子茂村三義路	10.18-10.19		○
	n20	子茂村	10.14-10.16	趙#	○
	n21	頂寮村潭墘	10.8-10.9		○
	n22	客厝村	10.2-10.3		○
	n23	四股村	10.2-10.3		○
	n24	內寮村	10.12-10.13	薛	○
	n25	卓運村	10.13-10.15		○
	n26	瓦瑤村	10.14-10.16		○
	n27	鹿寮	10.7-10.9	侯	○
	n28	烏雞寮	10.10-10.11		×
	n29	後湖溪底	10.27-10.29		○
	n30	潭東村江寮	9.14-9.16		×
	n31	埔墘	10.26-10.28		○
	n32	大東庄	10.12-10.13		○
	n33	本下寮村	10.10-10.11		※

資料編

	n34	二房寮	10.16-10.18		※
大 埤 鄉	o1	松竹村蘆竹角	10.9-10.12		×
	o2	北鎮村鎮平	10.13-10.14	封#	○(10.11-10.14) (侯#)
	o3	北鎮村竹圍	10.14-10.18	徐#	○(10.9-10.12) (徐#)
	o4	北鎮村後庄	10.9-10.12	吳#	○(10.14-10.16) (封#)
	o5	怡然村	10.9-10.11	張#	○(侯#)
	o6	聯美村頂田尾埔仔	9.8-9.10		○
	o7	聯美村頂田尾	10.14-10.16		○(侯)
	o8	豐岡村田心	10.14-10.15		○
	o9	興安村	10.11-10.13		○
	o10	松柏村	10.10-10.15		※
土 庫 鎮	p1	秀潭	10.15-10.16		○
	p2	奮起湖	10.6-10.7		○(10.24-10.25)
	p3	埤腳里	2.25-2.28	薛#	○(2.25-2.27)
	p4	埤腳里竹圍	9.22-9.24	侯	○(9.22-9.27)(侯)
	p5	崙內里頂寮	10.2-10.3		○(10.20-10.21)
	p6	崙內里	10.22-10.23		○(10.16-10.17)
	p7	馬公厝順安宮	10.7-10.8	徐#	○(10.16-10.17)
	p8	馬宮厝竹仔腳	10.7-10.8		※
	p9	後埔里	10.18-10.19	薛#	○(10.15-10.16)(侯)
	p10	後埔里雙厝	10.18-10.19	羅#	○(10.15-10.16)
	p11	越港里	10.15-10.16		○
	p12	大荖里好收庄	10.20-10.21		○(10.8-10.9)
	p13	扶朝	10.23-10.24		○(10.22-10.23)
	p14	下庄里	10.20-10.21	侯#	○(10.23-10.24)
	p15	頂竹圍	10.10-10.11		○(10.2-10.3)
	p16	中竹圍	10.10-10.11		○(10.2-10.3)
	p17	下竹圍	10.10-10.11		○(10.2-10.3)
	p18	新興里爐竹塘	10.2-10.3		○
	p19	興新里	10.13-10.14	侯	※
	p20	土庫鎮順天宮	10.15-10.16		○
	p21	興新里下店仔5號	9.8-9.10		○(9.9)
	p22	大荖里玄武宮	10.20-10.21		○
	p23	興新里	10.4-10.5	侯	○(10.13-10.4)
	p24	馬光厝山仔腳	10.16-10.17		※
	p25	東平里	8.28	侯	※
	?p26	新里興安宮	10.4-10.5		※
虎 尾	q1	北溪里龍安宮	9.9-9.10	張#	○
	q2	三合里吳厝	10.9-10.10	侯	○(10.14-10.15)(侯)

資料編

鎮	q3	大屯	10.27-10.28		○(10.21-10.23) (侯#)
	q4	芳草里牛埔仔	10.18-10.19	侯	○(10.21-10.22) (侯)
	q5	崁頂	8.21-8.24		×
崙背鄉	r1	大有新芳	9.16-10.16		○(9.16-)
	r2	阿勸村	10.14-10.17		○(10.14-10.16)
	r3	五塊	11.18-11.20		×
	r4	草湖村拱后宮	10.10-10.13		○(10.9-10.13)
褒忠鄉	s1	有才村	10.27-10.30		×
	s2	新湖村	10.27	薛	×
	s3	褒忠三村	10.27-10.30	薛	○
	s4	田洋村	10.27		○(10.28-10.30)
	s5	龍岩村	10.17-10.18		○
	s6	潮厝村	10.13-10.14		○(10.20-10.21)
	s7	王厝村	10.16-10.17		○(10.12-10.13)
	s8	中民村大	10.15-10.16		○
	s9	新厝仔	10.27-11.1	薛	○
	s10	北興	10.26-10.30		×
	s11	太湖村	10.20-10.22		×
	s12	三和村	10.16-10.17		※
	s13	田洋陳福來	11.5-11.9	何#	×
	s14	後壁湖	10.15-10.16		×
東勢鄉	t1	阿坤厝	10.20-10.22		○
	t2	新吉庄	10.17-10.19		○
	t3	新許厝寮	10.21-10.23		×
	t4	程海村	9.14-9.16		×
	t5	程海村	10.14-10.16		○
	t6	復興村	10.27-11.1		○(10.27-10.30)
	t7	安南村	10.21-10.23		○
	t8	賜安宮	10.14-10.16	耿#	○(10.14-)
	t9	復興村	12.1-12.5	薛#	×
	t10	月眉村八王廟	11.1-11.2	薛#	×
	t11	龍潭	10.14-10.16		※
	t12	龍潭	10.14-10.16		※
	t13	昌安村	10.27-11.1		※
	t14	同安村	10.27-11.1		※
臺西鄉	u1	牛厝村安南宮	10.11-10.13		○(10.16-10.18)
	u2	舊泉州泉和宮	10.16-10.18		○
	u3	新泉州泉安府	10.16-		○
	u4	華陽府	10.14-10.16		○(10.14-)
	u5	五塊寮五條村慈安宮	10.14-10.16		○(10.13-10.16)
	u6	富琦村	10.11-10.13		※
	u7	普令厝	10.17-10.24		※

資料編

	u8	湖仔内	10.14-10.16		※
麥寮鄉	v1	楊厝寮	10.2-10.4		×
	v2	公正拱範宮	10.23-10.30		○(10.14-10.17)
	v3	興化寮	10.23-10.30		○(10.29)
	v4	後安村富興宮	4.26-4.28		※

〔其他縣・市〕

縣名	聚落名(或廟名、個人名)	勸請神明期間	王爺名	1986年時
臺北縣	中和蘇啟東	11.19-11.23	薛#	×
	板橋天聖宮	9.6-9.12	薛#	×
臺南縣	佳里鎮南口(判読不能)	10.16-10.23	張#	

〔不明〕(所在地不明)

聚落名(或廟名、個人名)	勸請神明期間	王爺名	1986年時
復興張官江	11.6-11.8	薛#	
嘉義蔡育民	12.6-12.10	薛#	
三塊寮三和村	10.16-10.17		
(地名判読不能)		何#	
(?)	9.25		※
嘉義田岸腳	10.1		※

付録Ⅲ：馬鳴山鎮安宮五年王爺庚午科年大祭典举行「金籙三朝祈安清醮啓事」の布告

(1990年)

馬鳴山鎮安宮

五年王爺 庚午科年大祭典举行金籙三朝祈安清醮啓事

茲啓者為本宮 五年王爺欣逢庚午科年大祭典揆定民國七十九年國曆十二月十二日（農曆十月二十六日）下午起連續在本宮举行五天建設举行金籙三朝祈安清醮爰將行啓事摘錄如下：

1. 建醮意義：本宮每逢寅、午、戌年稱謂大科年依例建設金籙三朝祈安清醮倡導人民行善造福地方貢獻國家及慰祭護國英靈超度孤魂祈求上蒼賜福風調雨順國泰民安五谷豐登六畜興旺。
2. 建醮日期與地址：揆定中華民國七十九年國曆十二月十二日（農曆十月二十六日）下午（十二月二十七日丑時起鼓）起連續在本宮举行五天。
3. 建醮斗燈：①本宮分立五股即主會、主醮、主壇、主普、三官首等各股規定建醮大斗燈乙座、連爐主乙座共六座。
②為庇全省各廟、宮、寺、壇、堂暨信徒需要獻設斗燈祈求平安起見本宮另備福壽及祈安斗燈三種任選乙座以登記先後為排位順序詳細內容可向本宮總務組面洽申請參加期限自即日起至十月二十日止。
③福壽祈安斗燈定於十月二十七日午前九天開燈參加者屆時請自派一二人本宮廟內日夜輪值管理及陪拜或託本宮僱人管理亦可請向總務組面洽決定之。
4. 神仏王令法器鑑醮：①全省各廟、宮、寺、壇、堂暨衆信徒所有供奉尊神或菩薩神像及王令、法器均可參加鑑醮請向總務組面洽參加日期自即日起至十月二十日止。
②申請登記時以先後為鑑醮座位並在登記卡先定回駕日期（特殊情形者另定之）請各位信徒注意按時迎請神像回駕俾免屆時紛亂徒費時間登記工作完畢後神像及王令、法器須自登記日起至十月二十日以前憑登記卡迎入醮壇以便定座。
③三朝醮科係於十月三十日晨完滿結束當日擬定福壽祈安斗燈兼有神像鑑醮者暨遠途蒞宮住宿或鄰近親戚妯之信徒帶有神像鑑醮者以特殊關係酌情先予分發回駕（一天為限）。
5. 人丁消災獻疏：全省各地善男信女均可參加本宮備有申請用紙凡有意參加者請向本宮總務組索取其內容須自填寫住址、姓名、年齡或生年月日等申請日期自即日起至十月二十日止。
6. 外醮壇設立：本宮股內依例應設外醮壇五座為原則如全省各地分靈及其他團體或信徒有意參加獻設者仍可向本宮總務組申請獻設但其位置另商決定之。
7. 建醮普度日期：①揆定民國七十九年農曆十月二十九日下午一點起至五點之間本宮股內各村里請就地集中獻普之。
②本宮每逢大科年建醮時全省各地善信等有蒞宮進香及陪普之例然而各

1 「雨」は「雨」の誤りと思われる。

2 「谷」は「穀」の意。

地善信如願在当日獻普之時間參加陪普者可在貴地境內集中陪普尤為歡迎惟獻普物品請儘量以香、花果品或乾料等為宜。

③如在本宮前陪普者請標明獻普人住址、姓名以資識別並請先向本宮連絡決定場所排設。

8. 齋戒素食：自農曆十月二十五日早晨起至同月二十八日早晨止（三天）本宮股內男、女、老幼信徒請一律實施素食沐浴齋戒以表虔誠並祈閭家康安。

歡迎全省各地士紳善男信女踴躍蒞臨指教共襄盛舉是所至盼順頌福祉

謹上

全省各廟、宮、寺、壇、堂

暨各位士紳善男信女 勛 鑒

馬鳴山鎮安宮建醮籌委員會 謹啓

地址：

電話：

中華民國七十九年

月

日

付録Ⅳ：馬鳴山鎮安宮五年王爺戊寅科年大祭典舉行「金籙三朝祈安清醮啓事」の布告
(1998年)

馬鳴山鎮安宮管理委員會 函

馬鎮總字第045号

受文者： 各地廟、宮、府、寺、壇、堂暨各界士紳，善男信女。

主 旨： 檢送本宮「戊寅科年大祭典舉行金籙三朝祈安清醮啓事」乙份，請共襄盛舉，同沾法雨。

說 明： 1. 本宮戊寅科年大祭典時間： 國曆十二月十四日
起五天。

農曆 十月廿六日

2. 本宮戊寅科年大祭典舉行三朝祈安清醮啓事。如附件（一）

馬鳴山鎮安宮管理委員會

主任委員 陳 某

附件（一）

馬鳴山鎮安宮五年王爺戊寅科年大祭典舉行金籙三朝祈安清醮啓事

茲啓者為本宮 五年王爺欣逢戊寅科年大祭典揆定民國八十七年國曆十二月十四日（農曆十月二十六日）上午起連續在本宮舉行五天建設金籙三朝祈安清醮爰將行啓事摘錄如下：

一. 建醮意義：本宮每逢寅、午、戌年稱謂大科年，依例建設金籙三朝祈安清醮，倡導人民行善，造福地方、貢獻國家及慰祭護國英靈超度孤魂、祈求上蒼賜福風調雨順、國泰民安、五谷豐登、六畜興旺、官階高昇、生意昌隆。

二. 建醮斗燈受理日期及費用表：

建醮斗燈名稱	受理日期	費用	備註
總主首斗	農曆八十七年八月一日起至十月一日止	玖拾陸萬元起	競價
總副主首斗	農曆八十七年八月一日起至十月一日止	七拾萬元起	競價
玉皇大帝斗	農曆八十七年八月一日起至十月一日止	參拾陸萬元整	1. 斗數不限 2. 每斗價格
三官大帝斗	農曆八十七年八月一日起至十月一日止	貳拾陸萬陸仟元整	1. 斗數不限 2. 每斗價格
觀音菩薩斗	農曆八十七年八月一日起至十月一日止	貳拾參萬貳仟元整	1. 斗數不限 2. 每斗價格
五年王爺斗	農曆八十七年八月一日起至十月一日止	壹拾玖萬陸仟元整	1. 斗數不限 2. 每斗價格

3 「谷」は「穀」の意。

平安斗	農曆八十七年八月一日起至十月廿日止	貳萬元整	1. 斗數不限 2. 每斗價格
-----	-------------------	------	--------------------

三. 神尊鑑醮受理、領回日期及費用：

(一) 受理日期：農曆八十七年九月一日起迄八十七年十月廿五日止。

(二) 領回日期：農曆八十七年十一月一日起迄八十七年十一月十五日止。

(三) 費用：每尊壹仟元整。(附贈八仙彩、神尊祈念牌)。

四. 外醮壇設立：本宮分立五股依例應設主會、主醮、主壇、主普、三官首醮壇五座及建醮斗燈各乙座。

五. 建醮普度孤魂：1. 揆定民國八十七年農曆十月二十九日下午三時起至五時三十分之間，本宮股內各村里請就地集中獻普之。

2. 本宮每逢大科年建醮時全省各地善信均有蒞宮進香及陪普之例，然而各地善信如願在當日獻普之時間參加陪普者，可在貴地境內集中陪普尤為歡迎，惟獻普物品請儘量以香、花果品或乾料等為宜。

3. 如在本宮陪普者請標明獻普人住址、姓名以資識別並請先向本宮連絡決定場所排設。

六. 齋戒素食：自農曆十月二十三日早晨起至同月二十五日晚上止(三天)本宮股內男、女、老幼信徒請一律實施素食沐浴齋戒以表虔誠並祈闔家康安。

歡迎全省各地士紳善男信女踴躍蒞臨指教共襄盛舉是所至盼、順頌福祉。

謹上

全省各廟、宮、寺、壇、堂

暨各界士紳，善男信女 勛 鑒

馬鳴山鎮安宮管理委員會 謹啓

地址：

電話：

中華民國八十七年七月 日

附録Ⅴ 馬鳴山鎮安宮五年大科庚午科年大祭典「金籙三朝祈安清醮」

のプログラム(1990年)

(注：このプログラムは、道士があらかじめ作成し、鎮安宮に通知したものを忠実に記録したものである。実際に儀礼を挙げるにあたっては、時間などの関係で、若干の項目の省略、追加、あるいは前後の入れ替えがあった。)

民国七十九年歲次庚午農曆十月二十六、二十七、二十八、二十九、三十日

馬鳴山鎮安宮修設三朝清醮科儀程序表

No.	科儀順序	時間	祭品	備註
第一日目(農曆十月二十六日)				
1	鴻壇奏樂	午後6時		
2	引鼓入醮	午後7時	大三牲	
3	金科玉壇	午後7時半	大五牲	会首委員倍拝
4	開光点眼	"		
5	朱羅大請	午後9時	大五牲	全員倍拝
6	啓請三界	午後10時	"	"
7	暫停法音	午後12時		
第二日目(農曆十月二十七日)				
8	法鼓啓壇	午前6時		
9	啓闕至尊	午前6時半	大五牲・菜碗・四果	玉皇首倍拝
10	懸掛金榜	午前8時	大三牲・四果	
11	豎立黄霓	午前8時	大五牲・四果	玉皇首倍拝。黄霓とは、竹に括り付けて揚げたもの。
12	布平安軍	"		東西南北の軍を付置する儀礼。 11,12 は廟前庭の灯篙の前で行った。
13	啓請王爺	午前9時	大五牲・{米+果} 粽・菜碗	全員倍拝
14	九陳獻糝	午前9時半	大三牲菜碗・金銀財宝	"
15	王前獻花	繼續	"	"
16	外壇啓請	"	自弁	
17	玉皇集經	"	四果	玉皇首倍拝
18	交經補謝	"	"	"
19	水燈請孤	午後5時半	三牲五味碗	主普倍拝
20	引孤安座	"	"	"
21	鴻壇奏樂	午後7時		
22	分燈煥彩	"	大五牲・菜碗	全員倍拝
23	捲簾覲帝	"	"	"

24	鳴金擊玉	"	"	"
25	啓請聖師	"	大三牲・四果二付	"
26	滌水禁壇	"	大五牲・四果	"
27	宿啓九天	"	"	"
28	安鎮真文	"	"	"
29	謝師拜聖	"	"	"
30	暫停法音	午後 12 時		
No.	科儀順序	時間	祭品	備註
第三日目（農曆十月二十八日）				
31	法鼓淨壇	午前六時		
32	啓請聖師	繼續	大三牲・四果二付	全員倍拜
33	早朝三宝	"	大五牲・菜碗菓子	"
34	拜謝師聖	"	"	"
35	朝天宝懺 1, 2, 3	"	四果	会首及委員輪流倍拜
36	啓請師聖	"	大三牲・四果二付	全員倍拜
37	午朝紫微	"	大五牲・菜碗・四果	"
38	携遊玉京	"	"	"
39	午秩花果	"	" + 金銀財宝	"
40	拜謝師聖	"	"	"
41	朝天宝懺 4, 5, 6	"	四果	輪流倍拜
42	鴻壇奏樂	午後七時		
43	啓請師聖	繼續	大三牲・四果二付	全員倍拜
44	晚朝勾陳	"		"
45	金花表裡	"	"	"
46	拜謝師聖	"	"	"
47	朝天宝懺 7, 8	"	四果	会首輪流倍拜
48	休息	午後十二時		
第四日目（農曆十月二十九日）				
49	滿通法鼓	午前六時		
50	重白至尊	繼續	大五牲・四果	会首倍拜
51	朝天宝懺 9, 10	"	四果	輪流倍拜
52	啓請官將	"	大五牲・四果	全員倍拜
53	登壇拜表	"	"	"
54	拜謝官將	"	"	"

55	七献香花	"	大三牲・菜碗＋ 金銀財宝	"
56	王前献料	"	"	"
57	道場呈疏	"	大五牲・四果	"
58	外壇献栴	"	自弁	
59	巡筵洒孤	午後三時		
60	登座說法	午後四時	大五牲・四果	主普倍拝
61	送孤化紙	午後六時		
62	酌謝王爺	繼續	自弁	全員倍拝
63	五斗真經	"	四果	
No.	科儀順序	時間	祭品	備註
64	延寿本命	"	"	
65	元辰宝懺	"	"	
66	万靈星燈	"	"	
67	休息			
第五日目（農曆十月三十日）				
68	酌謝三界	午前零時	大五牲・清猪・ 草羊一付	全員倍拝
69	外壇謝神	"	自弁	
70	降御正醮	"	大三牲・四果	
71	拝謝師聖	午前零時	大三牲・四果	
72	勅給靈符	繼續		活鷄鴨一付
73	完醮化紙			
74	合境平安			

附録VI 馬鳴山鎮安宮五年大科庚午科年大祭典「金籙三朝祈安清醮」の「榜」

(1990年)

(注：道士が作成し、張り出したものを転写した。ただし、本附録採録にあたり、人物名は伏せた。)

金籙禳災 祈安芳醮福章

上清三羽五雷經 金闕御前贊 寮大夫掌天雷酆嶽北極治邪事陳 (印章) 當職欽承

帝命掌握符印領諸司號令之權 主玄壇 設醮禳災祈安之事既詞旨合領告朋今據

中華民國台灣省雲林縣褒忠鄉馬鳴村鎮安路參拾壹號馬鳴山鎮安宮 信士衆居民 仝就馬鳴山鎮安宮奉

道設醮禳災祈安保境植福

主任委員 吳某 副主任委員 陳某 常務監事 陳某 總監事 楊某
總務組長 陳某 財務組長 留某 營繕組長 留某 祭祀組長 葉某 接待組長 陳某
委員 陳某 蘇某 張某 陳某 陳某 陳某 蔡某 張某 張某 周某 蔡某 林某
監事 羅某 周某 陳某 陳某
顧問 陳某 陳某 周某 蔡某 陳某 陳某 蔡某 張某 陳某 蔡某 吳某 廖某 李某 楊某
蘇某 陳某 陳某 蘇某

中民村長 留某 中勝村長 邱某 埔姜村長 留某 馬鳴村長 蘇某 新湖村長 陳某
有才村長 林某 田洋村長 陳某 新厝村長 陳某 六塊村長 張某 北寮村長 張某
同安村長 陳某 復興村長 林某 月眉村長 謝某 昌南村長 陳某 媽埔村長 陳某

主普殿 月眉村 田洋村
主會殿 媽埔村 六塊村 褒忠村
主壇殿 新厝村 芋頭村 有才村
主醮殿 同安村
三官首殿 馬鳴村 昌南村 復興村

偕合衆信人等謹沐炷香敢稽

上達伏以

天道無言弗爽災祥之應 人心有覺能轉休咎之機其疫癘遞隆矣 上天警修德以至意之可加而
清醮舉行乃彼蒼可祐吉而
天心之厚賜誠惟可格德莫能名但念衆 等佳居鄉里各安生業 崇奉

千歲奉旨領降掌陰陽善惡之由代天巡狩察民間禍福之報衆生有難若禱告神慈無私降吉祥伏願

聖恩活蕩錫時和年豐之兆 帝德純禧錫康物阜之澤天災地否莫臨鄉里之中歲危同厭無遭村落之裡老安少懷歌鼓腹子乾覆坤載人榮物穰歡飽煖于

青天白日化凶為吉去否成泰士登金榜農箱大有工商倍利風調雨順國泰民安願言不盡全叨巨疵例定今日念柒日念捌日越至念玖日仗道就宮立壇修建

金籙禳災祈安芳醮一大会行科三日夕吉日起鼓焚油逐穢先發一宗文字告聞

三界攸司 敬啓芳筵 爰竭寸心恭迎

帝輅大降祥光勅禁妖氛揚旗示榜督將衛壇開諷 高上玉皇本行心印集經啓開持念

太上鴻名御號演三卷開五品補謝交經敬由保佑拜朝天謝罪大懺奉獻九陳妙法晚燃宝炬以光真捲珠簾而觀帝鳴金戛玉啓告

師聖尊主維大 致法宿啓玄壇紀綱 教法敷露 篆真文安鎮 疏奏

九天懺悔十極謝師解佩少息梵音次早 天朗氣清玉炉添香行道青詞達于

三清丹忱陣乎四府暗方中離陽正午一緘之紅疏奏 柴清之闕下瑤壇日暮備拳文儀玄章上奏

勾陳 惻維達一心玉兔西墜金雞報晚 越至三早 天曙洒淨壇場復整壇界重鳴法鼓重白

至尊茶獻異品敷宣寶真妙經首雪愆尤啓請官將登棚演教拜進表章上陳

御覽各家行香沿門宣疏逢午獻 散遶奇花道場甘湯入醮續完主科崇建道典外備少筵普施孤典通誠正醮降迎

玉京詠大謝之鴻文酌三行之美醞闕五雷神燈設和瘟淨醮禳祀瘟司完滿酌獻送

聖回程俵代疏財犒賞官軍勅鎮靈符拜別

天顧安奉境主恪盡醮事供真列分位行科三旦夕等因上奉

高真下祈平安萬福以今玄壇肇啓宝範初行右仰值日功曹當境神聰守榜大神持旗使者即使肅黃道通誠達惻迓

帝駕以丕臨敷人祥而駢集功勳廣著神庥不昧準教奉行須至榜者

普告無窮 萬神咸聽

右榜知悉

天運庚午年陽月 念柒日 念捌日至 念玖 日給

祖師三天扶教正壹靜應顯佑真君張

安

榜 急

發本宮前張掛

附録Ⅶ 馬鳴山鎮安宮五年大科庚午科年大祭典「金籙三朝祈安清醮」の普度用の「榜」

(1990年)

(注：道士が作成し、張り出したものを転写した。ただし、本附録採録にあたり、人物名は伏せた。)

靈寶大法司 本司以今為賑濟寒林以靖地方事 今拋

中華民國台湾省雲林縣褒忠鄉馬鳴村鎮安路三十一號馬鳴山鎮安宮各村戸民 全就淨處奉道設醮禳災
祈安普度保境植福

主任委員 吳某 副主任委員 陳某 常務監事 陳某 総監事 楊某
総務組長 陳某 財務組長 留某 營繕組長 留某 祭祀組長 葉某 接待組長 陳某
委員 陳某 蘇某 張某 陳某 陳某 陳某 蔡某 張某 張某 周某 蔡某 林某
監事 羅某 周某 陳某 陳某
顧問 陳某 陳某 周某 蔡某 陳某 陳某 蔡某 張某 陳某 蔡某 吳某 廖某 李某 楊某
蘇某 陳某 陳某 蘇某

中民村長 留某 中勝村長 邱某 埔姜村長 留某 馬鳴村長 蘇某 新湖村長 陳某
有才村長 林某 田洋村長 陳某 新厝村長 陳某 六塊村長 張某 北寮村長 張某
同安村長 陳某 復興村長 林某 月眉村長 謝某 昌南村長 陳某 媽埔村長 陳某

主普殿 月眉村 田洋村
主會殿 媽埔村 六塊村 褒忠村
主壇殿 新厝村 芋頭村 有才村
主醮殿 同安村
三官首殿 馬鳴山 昌南村 復興村

偕合衆信人等涓十今月二十七日連二十八日二十九日仗道就宮立壇修建
金籙禳災祈安清醮大会行科三旦夕依修奉等因專祈合衆平安境土清泰照得本司 代天尊而宣化遵仙
翁之科典受醮主之致誠設無碍之淨穢擇於是晚

備列香粿賑施孤魂汝等善瑞臨壇好明本性同沾無量之功共榮希夷之界 望光托化自然超昇須至榜者

右仰孤魂知悉

天運庚午年拾月

廣渡沈淪天尊

二十九日給

食

示

懺

發淨処座前曉諭

附録Ⅷ 語彙

以下では、本論で言及した中国語及び閩南語の語彙について、日本の読者になじみの薄いものや文中にしばしば言及されるものを取り上げ、簡単な注釈を施した。また、日本語であっても、台湾が植民地であった時代に用いられた用語についてはここでとり上げている。詳細な解釈を要するもの、本論の議論と関わる語彙については、以下で指定している個所も参照されたい。語彙の配列順は、日本語読みのあいうえお順とした。また、本文中で付記した「」や〈 〉などの括弧は、ここでは省略した。

あ行

陰間	あの世。
陰筭	筭で、二枚とも陰（曲面）が上になった場合。神が不同意であるか怒っていることを表わす。
淫祠	民衆から信仰されているが、正祠とは認められない廟。
烏頭司公	台湾南部の道士。吉事、凶事の両方の儀礼を行う。
運	命と対になる。比較的短いタイムスパンの運。
謁祖進香	祖廟の神に拝謁するための巡礼。
王船	王爺を載せて送り出す為の船。
王爺	神の一種。別名、千歳、代天巡狩など。
鬼	特定の祭祀者を持たない死者の靈魂。詳細は第六章参照。
瘟疫	ペストやマラリアなどの熱帯性伝染病。
温元帥	神の一種。温姓。
瘟神	疫病神。
温府王爺	温姓の王爺。

か行

開路鼓	巡礼や巡庄などの隊列の先頭に立つ太鼓あるいは銅鑼の演奏隊。
開鬼門	農曆7月1日に地獄の門が開くこと。
改運	補運ともいう。悪い運を変えること、またその儀礼。
外壇	醮の法事に参加する各股等が廟の外に設置する祭場。
械鬪	地縁或は出身地により結合した集団同士の間での武力闘争。
下願	願掛けをすること。
衙署	役所。
過火	燃やした金紙や油などの上を走って踏み越え、穢れを祓うこと。
過房团	兄弟の息子などの父系親族から取った養子。
神	神。詳細は、第六章参照。
甘王	広西の地方神。
鑑醮	神像が醮の祭りに参加すること。
関帝	関聖帝君とも呼ばれる神。関羽。
看天田	天水農業。
祈安清醮	地域社会の不吉なできごとを神に解決してもらい、靈験に感謝するの気持ちを表すために道士に依頼して行う盛大な祭典。
貴氣	子供小さい時よく病気になって、育てるのが大変なこと。

鬼月	農曆7月のこと。
義民公	神の一種。正義の為に戦って亡くなった人がその前身。
客王	廟内に常駐するのではなく、祭の時に海から招いてくる王爺。
客人	客家語を母語とする人々。
救生	神に対する吉事に属する儀礼。
経衣	紙に衣服や靴などの絵が印刷されたもの。死者や孤鬼に捧げる。
轎班	神輿の担ぎ手のグループ。
玉皇上帝	天の最高位の神。
玉旨	玉皇上帝から下される命令。
金紙	主に〈神〉に対して捧げられる紙銭。
銀紙	祖先や鬼に対して捧げられる紙銭。
迎王	屏東県小琉球、東港などで行われる三年に一度の王爺大祭。
芸閣	廟の祭等で神輿の出巡等に合わせてくりだされる見世物の一種。
契団	神の義理の息子。子供の健康を願って結ばれる義理の親子関係。
結縁	縁結び。
結拜	義兄弟の契りを結ぶこと。
県丞	副県知事。
股	廟の祭祀や運営の権利・義務の持分を持つ地縁的な単位。
紅龜	供物に用いる甘い餅の一種。亀の形をしている。
香客	参拝客。
好兄弟	特定の祭祀者を持たない死者の靈魂。詳細は第六章参照。
犒軍	神兵をねぎらうための儀礼。
交香	廟と廟の間で相互に往来関係があること。
郊行	ギルド。
項王	項羽が神格化したもの。
香山五岳神	台湾の王爺の直接の起源と言われる神。詳細は第5章参照。
香庄	鎮安宮の五年大科の際に神像を勧請する単位。多くは村落などの地縁的な単位。主に、雲林県、嘉義県の沿海地域に位置する。
香條	巡礼団の通過、来訪を告知する短冊。
紅頭司公	台湾北部の道士。吉事のみを行う。
香灰	神を拝む為にともした線香の灰。
降鸞扶乩	神が乩筆という筆記具に降臨して筆記する託宣。
五瘟皇	瘟神。『封神演義』に登場する商王朝の紂王の部下。
五瘟使者	瘟神。別名、「五帝」(中国南部)、「五福大帝」(台湾)。
筭	占いの道具。2枚の三日月型の竹片あるいは木片を用いる。
五股	鎮安宮周囲の諸村落から構成された五つの信者グループ。
五股会	鎮安宮の五股の前身。
呼請	(神に)呼びかけて招くこと。
五牲	玉皇上帝に捧げるための供物。五種一通常、鶏、豚、魚、家鴨の肉と豚の肝臓あるいは腎臓一からなる。
五帝	瘟神。別名、「五瘟使者」、「五福大帝」(台湾)。
五年王	王爺の一種。別名、五年王爺、五年千歳、十二千歳、十二王爺等。
五年王爺	王爺の一種。別名、五年千歳、五年王、十二千歳、十二王爺等。
五年千歳	王爺の一種。別名、五年王爺、五年王、十二千歳、十二王爺等。
五年大科	鎮安宮の足掛け五年に一度の大祭。

五府王爺	王爺の一種。五人の王爺から構成される。
五方鬼主	五瘟使者。「女青鬼律」に記載された。表12参照。
顧廟	廟守。
五福大帝	瘟神。別名、「五帝」「五瘟使者」。
顧炉	香炉の世話をすること。

さ行

濟公	羅漢の一人。賭け事に靈驗があることで台湾で人気の神。
菜飯	完全に調理されたおかずと御飯からなる供物。
做客	ある神の祭典時に、他所の廟からも神を勧請してくること。
鑽轎脚	地面にぬかずいた人々の列上を神輿が通ること。病気が平癒すると信じられている。
三献礼	醮の中では最も簡単な三献酒を基本とする祭神形式。
三山国王	広東省揭陽県阿婆墟の明山、独山、巾山という三つの山の神。
參神	陣頭が各家庭の前あるいは中に入って演技すること。
三牲	神に捧げる供物。三種一通常、鶏、豚、魚一からなる。
三府王爺	王爺の一種。三人の王爺から構成される。
三面壁	小さな祠で、三面に壁があるが、廟門を持たない状態のこと。
司公	道士。
詞状	告訴状。
獅陣	獅子舞。
紙厝	死者が住まう為の神製の家。
祀典	国家が公認した神の格式、祠廟及び祭祀を規定した公式記録。
車鼓陣	道化役者1人と女形1人または2人で構成されるパフォーマンス。
邪神	善悪の判断をしない神。
謝平安	諸神にこの一年が平穩無事であったことを感謝する祭。
順風耳	媽祖の主席護衛。千里の先まで耳が聞こえる。
拾魂	位牌婚。
十寨	17世紀初頭に顔思齊、鄭芝龍及びその配下が開拓した十の村落。
十二王爺	五年王爺の別称。
十二千歲	五年王爺の別称。
十八王公	台湾北部の神。17人の水死体と1匹の生きた犬が神格化したもの。
醮	道士を招いて地域の避邪祈福のために行う大祭。詳細は、第三章参照。
巡庄	祭典時に神像を乗せた神輿が村を練り歩くこと。
笑筭	筭で、二枚とも陽（平面）が上になった場合。吉凶相半ばの意。
小神	現世の官僚に比することの出来ない地位の低い神。
進香	巡礼。
進士	科挙（官吏選抜試験）最終試験合格者。詳細は序章注21参照。
陣頭	文武の芸を披露するグループ。
神明会	特定の神を共同で祭祀する人々のグループ。
随香	神輿の練り歩きなどに随行すること。
水師	水軍
聖筭	筭を投げ、陽（平面）、陰（曲面）が出た状態。神が承諾したことを示す。

正祠	朝廷の指示で地方官衙が祀る祠廟。祀典に記載される
聖旨	皇帝から下される命令。
正神	善悪の判断をする正しい神。
牲礼	神に捧げる供物。
送王船	王爺及び供物を船に積んで送り出す（焼く或は流す）儀礼。
総管	中国江南地方に多い神。海運船団の指揮官の総称に由来する。
宗祠	祖先を祭祀するための専門の場所。
宗族	父系血縁原理に基く親族。
族譜	宗族の祖先の系譜関係、歴史についての記録。
組仔頭	賭け事のブローカー。
祖先	祖先。詳細は、第六章参照。
祖廟	ある神が分かれ出た元の廟。

た行

大家樂	宝くじ及びそれをもとに作られた賭け。
大戲	廟の公費で支出する奉納の舞台。
太子爺	神の一種。哪吒太子とも呼ばれる。殷の紂王の武将李靖の三男であるにもかかわらず周の武王に味方した。様々な異能をもつ。ただし、「太子」と名のつく神は実際はこの一つに限らない。
歹性地	性格が悪いこと。
代天巡狩	王爺の別称。
大辦金	紙銭の一種。
大墓宮	無縁仏などを祀る祠。
值年	年単位の当番。
冲犯（衝犯）	祟り、さわり。
厅	神像や祖先の位牌を置く部屋で、家屋の中心となる部屋。
丁錢	祭の時に各家庭から出す分担金。
天后	媽祖。
電子琴	改造したトラックの上で行う歌謡ショー。
田頭田尾土地公	“土地公は、そこらじゅうに祀られている”という意味の諺。
頭家	炉主の補佐役。
童乩	神の靈媒。通常は男性。
読疏	神に向かって疏文を読み上げること。
度死	葬式や追善供養などの儀礼。
斗首	道教の法会で斗燈を安置している人。
斗燈	道教の法会で安置される邪をよけ福を呼ぶための道具。
斗燈籤	斗燈を奉納した人の姓名を書き入れた札。

な行

哪吒太子	台湾で人気の神。周王をたすけ、紂王に従う父親を殺そうとした。南鯤鯓の代天府の練り歩く範圍を馬鳴山鎮安宮の王爺のそれと区別するときを使う。
南巡	

は行

拜斗会	礼斗植福。斗燈を安置し長寿と幸福、消災を祈願する道教儀礼。
八字	人の生年・月・日・時をそれぞれ十干十二支で表わしたもの。
八家将	八人の武神の陣頭。
ham ⁵	権力があり、勢力が強いこと。
万善堂	無縁仏などを祀る祠。
飯担	食事当番。
搬鋪	死を目の前にした人を庁（位牌のある部屋）に移すこと。
封号	皇帝から神に授けられた称号。
普度	中元節などに行う施餓鬼。
分身	本尊のミニチュア。信徒に貸し出したり、練り歩き時に使われる。
分靈	ある廟や祠で奉祀されている神を分出し、新たに神像を作り、信者の自宅や新たに建てた祠や廟に安置して祭祀すること。
匾額	入り口や室内に掲げる額。
房	父系親族のセグメント。
包公	北宋時の人。名は拯。清官で有名。神としても祀られている。
法師	加持祈祷を専門に行う職能者。
補運	改運ともいう。悪い運を変えること、またその儀礼。
北巡	馬鳴山鎮安宮の王爺の練り歩く範囲を南鯤鯓の代天府のそれと区別するときを使う。
保甲制度	清代の住民相互監視の制度を踏襲して日本時代に作られた制度。十戸を一甲、十甲を一保とした。
保正	日本時代の保甲制度における保甲の長。

ま行

媽祖	神の一種。航海守護の神といわれるが、現在では万能神。
命	運と対になる。あらかじめ定まっっていて不変の運命。
命運	定まった命と可変的な運。
冥婚	位牌婚。
冥蛉子	異姓養子。
門神	邪鬼の侵入を防ぐ為に、廟門に画かれたり彫刻されたりする神。
問神	靈媒を通して、神に相談事を持ちかけ、託宣を得ること。

や行

有応公	祭祀する子孫のいない人の骨を合祀した一種の靈的存在。
有求必応	求めれば何にでも靈驗があること。
遊天河	送王船儀礼のときに、王船を焼くこと。
遊地河	送王船儀礼のときに、王船を河や海に流すこと。
陽間	この世。
養兵	神兵をねぎらうための儀礼。犒軍と同義。

ら行

李府王爺
龍陣
流水席
厲鬼
炉主

李姓の王爺。
ドラゴンダンス。
春祭時の共食。
横死或は祭祀を行う子孫を残さずに亡くなった人の靈魂
祭の責任者。